



もくじ



VISION/MISSION/RULE

代表挨拶

メンバー紹介

EDF紹介

ポロシャツ制作

事前準備期間

・ 第1章 調査企画

タイ日班

ファッション班

価値観班

コスメ班

・ 第3章 その他企画

フリーマーケット

和歌山紹介

ホスピタリティ

・ 第2章 交流企画

縁日班

スポーツ班

習字班

パフォーマンス班

・ 第4章 現地学校との交流

英語ディスカッション

ホストファミリー

個人体験記

VISION/MISSION/RULEの達成度

編集後記

TP11 期 VISION・MISSION・RULE について



VISION

新たな可能性
～レベルアップした未知の自分へ～

MISSION

- ①好奇心を大切に気になったら飛び込んでみる
- ②お互いの意見を尊重する
- ③タイと日本の相違点を感じて理解する



RULE

- ①気付いたこと・教えてもらったことは共有する
- ②タイの挨拶を完璧にする
- ③お互いの意見に反応する
- ④困った時は助け合う



代表挨拶

初めまして。TP11 期の代表を務めさせていただいた、和歌山大学観光学部 2 回生 (2024 年度現在) の西田千鶴です。私たち TP11 期は 2024 年の 2 月 15 日から 2 月 26 日までの 12 日間に渡り、タイへ渡航しました。

まず、今回の渡航においてご支援・ご協力してくださった EDF の皆様、藤山先生、ティーチングアシスタントの玲奈さん(10 期)、有海さん(10 期)本当にありがとうございました。私も含め TP メンバーの中には人生で初めての海外渡航という人も少なくなく、楽しみと不安がありました。頼もしい EDF さんのおかげで充実した渡航とすることができました。また、藤山先生には 1 年間本当にお世話になりました。事前講義から渡航中、事後講義を通じて、我々 TP11 期の意見や考えを尊重しつつ、我々の活動がうまくいくように支えてくれていました。そして、TP メンバーにも様々な場面で支えてもらいました。全員の協力のおかげで充実した渡航になったと思っております。タイプログラムを通じて、素敵な仲間と感動に出会うことができました。私たち、TP11 期はたくさんの方々のご支援の下今日まで活動することができました。ありがとうございました。

次に、タイプログラム 12 期に参加する皆様へ

タイプログラムに参加してくださりありがとうございます。様々な不安もありながら、自分の世界を広げようとわくわくした気持ちで参加してくれたのではないのでしょうか。私も、応募するときに全く不安がなかったわけではないですが、タイ・プログラムを通してたくさんの人と出会い、貴重な経験を積むことができました。応募から 1 年経った今、参加してよかったと心の底から思いますし、あの時一歩踏み出してよかったです。タイ・プログラム 12 期の皆様も、自分の選択に自信をもって充実した 1 年間にして下さい。

最後に TP11 期のみんなへ

1 年間最後までついてきてくれてありがとうございました。みんなの優しさ、温かさにもいつも救われていたし、居心地がよくて、しっかりしていていつも支えられていました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。TP11 期のみんなに出会えてよかったです。大好きな 11 期の代表を務められたこと、誇りに思います。1 年間本当にありがとうございました。

和歌山大学観光学部 2 回生 西田 千鶴

TP11 MEMBERS INTRODUCTION

MAO MORITA

涙脆いところも愛おしい
11期唯一の教育ガール



MAMU ISHIKAWA

みんなの癒し
もぐもぐまむち



SHUYA OKOBA

夜の街も怖くない！
11期唯一の頼れる男



SOYOKA KATADAE

ハッピーオーラあふれる
脚長美女



YUI SAKAI

タイメイクは任せて！
TP11期の美容番長



NATSUMI SARUTA

コミュカ最強！いつも
元気なパワフルガール



AMANA SUZUKI

タイティー大好き！
しっかり者の副リーダー



MIU TANAKA

タイ人を沸かせた
阿波踊ラー



MANAMI NISHIGUCHI

普段はしっかり者！たまに
ふざけるお茶目さん♡



CHIZURU NISHIDA

普段は天然、いざという
時は頼れるリーダー！



MINAMI MURAI

清楚な雰囲気とのギャップ
にやられる関西弁女子！



YUKINA YANASE

タイ全土が認める！
民族衣裳似合いすぎ女子



MIYU WATADA

TP11期に笑い声の旋風を
巻き起こすSUPERGIRL！



REINA NAKAMURA

心のオアシス、優しさと
美しさ満点のTAさん



YUMI TETSUKA

ヨーロッパ横断してる!?
みんなの頼れるお姉様



ICHIRO FUJIYAMA

友達!?な感覚で話せる
我らの指導者ふーじー！



タイでお世話になりました

EDF 紹介

EDF (The Education for Development Foundation)とは？

1987年に設立された団体で、タイの貧しい子供や若者に教育の機会を与え、生活をよりよくすることを目標に活動しています。

タイに渡航中、私たちのそばで支えてくれました。



PLOYさん

元気いっぱい空港お出迎え



BESTさん

頼れるカメラマン



POPさん

いつもそばで見守ってくれる☆



JOKEさん

象しか勝たん！！



ANNAさん

APUからのインターン生



TOYさん

ニコニコお母さん



RUNGさん

幸せを与えてくれる天使



CHATさん

タイ料理を教えてくださいよ

THANK
you

TP を共に乗り越えたポロシャツの制作物語

石川麻夢、大木場柊哉、和多田弥憂

1. 概要

TP11 期がタイの学校で活動する際に着用するポロシャツの制作を行った。10 期の報告書にて着心地や価格が高評価だったため、11 期も同様のサイトで購入することをポロシャツ班で決めた。事前に TP11 期に①色 ②どのようなデザインがいいかの 2 つのアンケートをとり、全員の意見が組み込まれるようにした。アンケートや報告は基本的に LINE を用いた。アンケートで出た意見を基にデザインを描いてくれる人を募り、引き受けてくれるメンバーが 2 人立候補したため、その 2 人にデザインを任せた。枚数に関しては、「タイで洗濯をするから 1 枚で足りる」という TP10 期の方の意見から、全員 1 枚ずつ注文した。注文を早めに行ったことで早割が適応して、少し料金を抑えることができた。

(1) ポロシャツ制作のスケジュール

11/14	色の投票（票数が同じだったため上位2色で再投票11/28）
12/5	デザイン作成者を奏花、千鶴に決定
12/6	デザイン案を募るLINEノートの作成
12月中	デザイン案送ってもらう
1/18	ポロシャツを注文
1/19	全体に決定デザインと注文完了の連絡 & 集金開始
2/1	ポロシャツ到着
2/5	全員に配布

(2) 料金詳細

[基本料金]	¥1,880
[追加料金]	3左胸 ダイレクトカラープリント フルカラー ¥650 10背面 レギュラープリント ホワイト ¥500
[割引]	曜日割 ... ¥-60 超早割 ... ¥-130
[小計]	枚数...14枚 1枚あたりの金額... ¥2,840
[小計(4Lサイズ)]	枚数...1枚 1枚あたりの金額... ¥3,040
お届け枚数	15枚
税抜ご注文金額	¥42,800
消費税(10%)	¥4,280
合計金額	¥47,080

2. 結果

事前アンケートにより、サイトで購入できる色の中からバーガンディに決まった。そして表面・背面デザイン共に携帯の落書き機能を活用してデザインを行った。まず表面デザインに関しては、前年度の TP ロゴを参考に T と P、そしてタイの国旗を上手く組み合わせてオリジナルのロゴを作成した。色合いは他のメンバーの意見を参考にし、シンプルかつパツと目を引くようなロゴに仕上がった。前年度を参考に刺繍のオプションを選択して料金シミュレーションをしたが、カラープリントと刺繍で大きく料金が変わるため、渡航費が昨年よりも高くなった現状を鑑みてカラープリントにした。

背面デザインに関しては、事前に行った T シャツに加えたい絵やタイのイメージについてのアンケートを参考にし、その中で見つけた「象」をモチーフにデザインした。また、「TP メンバー全員の名前を入れたい」という意見も合わせて、個々の名前を英語表記にし、デザイン済みの象の絵に沿って描いた。メンバー全員にとって「TP11 期といえばこの T シャツ!」と思える仕上がりになり、納得のいくポロシャツを制作することができた。



↑ 決定版のデザイン

↑ ポロシャツの全体写真

3. 感想

以下、TP からの感想を紹介する。（原文のまま）

- ・暑いタイでも着やすい生地と肌触りで、通気性もよかった。
- ・全員の名前が入っているのが良い。
- ・象にしたことでタイらしさもあって最高。
- ・値段はあまり高いとは感じなかったし、これ以上安いと逆に質が悪くなるかも。
- ・T シャツよりポロシャツの方が可愛くて良かったと思う。
- ・タイの生徒やホストファミリーに褒めてもらえて嬉しかった。



注文したサイト：オリジナル T シャツ制作会社「株式会社フォーカス」<https://www.forcus.co.jp/>

事前研修スケジュール 10月～2月

10月から、毎週月曜日5限に合計14回の事前研修を行った（後期教養科目「国際理解とフィールドスタディーⅠ」）。事前研修では主に、タイに関する学習や現地で行う交流企画や調査企画の事前準備を行った。

- ・8月7日 TP11 期初顔合わせ
- ・10月21日、22日 第1回合宿（大阪国際ユースホテル）

TP11期のVISION・MISSIONの決定や各企画の班分けを行った。そして、懇談会やBBQなどを行い、TP11期の仲を深めた。



- ・1月27日、28日 第2回合宿（和歌山市立青少年国際交流センター）

タイ渡航に向け、各企画のリハーサルや確認を行った。そして、縁日企画の準備やパフォーマンスの練習を行った。



講義	日時	議題
顔合わせ	2023 年 8 月 7 日	・ 自己紹介 ・ 夏休み課題の説明
第 1 回	10 月 2 日	・ 渡航までのスケジュール確認 ・ 夏休み課題の発表 (1)
第 2 回	10 月 16 日	・ 夏休み課題の発表 (2) ・ 第 1 回合宿の説明
第 1 回合宿	10 月 21～22 日	・ VISION・MISSION の決定 ・ 調査企画（メイク班、ファッション班、タイ日班、価値観班）とその担当の決定 ・ 交流企画（縁日班、スポーツ班、習字班、パフォーマンス班）とその担当の決定
第 3 回	10 月 23 日	・ 夏休み課題の発表 (3)
第 4 回	10 月 30 日	・ 調査企画の進捗共有・意見交換（全班） ・ 交流企画の進捗共有・意見交換（全班）
第 5 回	11 月 6 日	・ 交流企画の進捗共有・意見交換（全班）
第 6 回	11 月 13 日	・ その他企画の進捗共有・意見交換（全班） ・ 英語ディスカッションのテーマ決め
第 7 回	11 月 27 日	・ 交流企画の進捗共有（全班） ・ 英語ディスカッションのテーマ別担当決定 ・ SNS の方針について
第 8 回	12 月 4 日	・ 調査企画、交流企画、その他企画の進捗共有（全班）
第 9 回	12 月 11 日	・ タイ語講座 ・ 調査企画、交流企画、その他企画の進捗共有（全班） ・ 交流企画の企画書提出
第 10 回	12 月 18 日	・ タイ語講座 ・ 調査企画、交流企画、その他企画の進捗共有（全班）
第 11 回	2024 年 1 月 15 日	・ 英語版企画書提出 ・ 物品購入の確認 ・ ホームステイの説明
第 12 回	1 月 22 日	・ 調査企画、交流企画、その他企画の進捗共有（全班） ・ 英語ディスカッションの PPT 提出
第 13 回	1 月 27 日～28 日	・ リハーサル（スポーツ班、習字班、和歌山紹介班、英語ディスカッション） ・ 縁日班の準備、パフォーマンス練習
第 2 回合宿	1 月 29 日	・ 交流企画の進捗共有（全班） ・ 英語ディスカッションの最終確認
第 14 回	2 月 5 日	・ 交流企画、その他企画物品チェックと最終確認（全班） ・ 提出物と持ち物の確認

渡航スケジュール

日時	場所	活動
2月15日	日本・バンコク	関西空港～スワンナプーム空港
2月16日	バンコク	寺院見学 in Wat Muang & Wat Yai Chai Mongkol & Wat Maha That ディナークルーズ
2月17日		寺院見学 in Wat Arun & Wat Paknam Bhasi Charoen ショッピング フリーマーケット in Green vintage Ratchayothin
2月18日		Ecotourism Samut Prakan 見学 マングローブ植樹 水上マーケット in Talad Rom HUB
2月19日	バンコク サティカセ MP	サティカセ MP 到着 学校見学 タイマナー講座・フラワーアレンジメント ホストファミリーと会う
2月20日		サティカセ MP の授業に参加 書道体験 英語ディスカッション 日本和歌山紹介・パフォーマンス
2月21日		サティカセ MP 出発 スワンナプーム空港～チェンマイ空港 寺院見学 in Wat Phra That Doi Suthep
2月22日	チェンマイ Bankadwittayakom School	Bankadwittayakom School 到着 Welcome Ceremony 日本和歌山紹介 縁日体験 タイ文化体験
2月23日		日本語の授業に参加 タイ料理作り体験 スポーツ大会 パフォーマンス&ダンスパーティー
2月24日		喜捨 Bankadwittayakom School 出発 象保護センター見学
2月25日	チェンマイ	Pongyang Jungle Coaster and Adventure Park 体験 チェンマイ空港出発
	バンコク	スワンナプーム空港出発
2月26日	日本	関西空港到着

第一章

調査企画



ワット・アルン・ラーチャワララーム

タイにおける日本の漫画・アニメ文化が与える影響

鈴木和、田中美羽、森田茉桜

1. 調査目的

タイにおける日本の漫画・アニメの魅力度と、ジャパンエキスポの関係性について調査する。

2. 背景

タイでは、日本の漫画・アニメが流行しており、絶大な人気を誇っている。アニメイトバンコク店が2016年にオープンし、日本の漫画・アニメ文化がタイに広まっている中、現在の日本の漫画・アニメの魅力度について調べることにした。また、ジャパンエキスポというものがタイで2017年から毎年開催されている。ジャパンエキスポの内容や目的について把握し、ジャパンエキスポと学生のアンケート結果との関係性を調べる。

3. 調査方法・調査内容

(1) 事前調査

タイ国内における日本の漫画・アニメ文化とジャパンエキスポについて調べることを目的として、インターネットを用いて調査した。

(2) 現地調査

① アンケート調査

Google フォームを用いてアンケートを実施した。対象は、カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の生徒である。日本の漫画・アニメ文化に比較的興味がある、タイの若者世代の意見を調査したいと考えた。

② 観察調査

バンコク市内とチェンマイ市内で、日本に関する商品などを見つけて記録する。

4. 調査結果

(1) 事前調査

① いつ頃から日本の漫画・アニメ文化がタイに入ってきたのか。

タイでは1980年代以降の消費空間の形成と、ほぼ時を同じくして、日本製の漫画がタイに入り込んできた。1982年にはタイの大衆紙『タイラット』紙上で、「ドラえもん」の連載が始まり、その後、テレビでも放送されて単行本にもなった。その他、「一休さん」などのアニメも放送されている。このように、80年代には、急速に日本の漫画がタイ社会に浸透していく。

② ジャパンエキスポの概要

ジャパンエキスポは、バンコクにしながら日本の文化、教育、グルメ、音楽、アニメ、漫画、ファッション、伝統文化、旅行・観光など、オールジャパンを楽しむことができる、アジア最大級のジャパンイベントである。今年、9回目の開催となった「ジャパンエキスポタイランド2024」は、JOURNEY TO JAPAN をテーマに開催され、食、ファッション、観光、教育、文化、エンターテインメントなどに浸れる19のゾーンが設けられ、会場のセントラルワールドは日本に染まった。

(2) 現地調査

① アンケート調査（回答：61名）

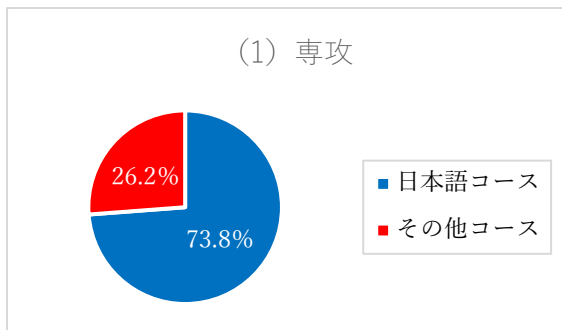


図 1

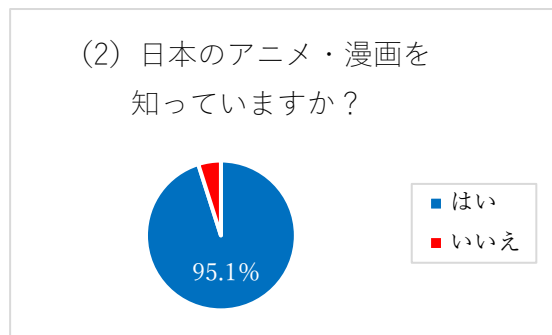


図 2

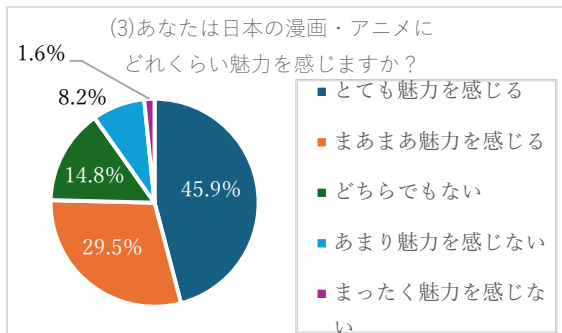


図 3

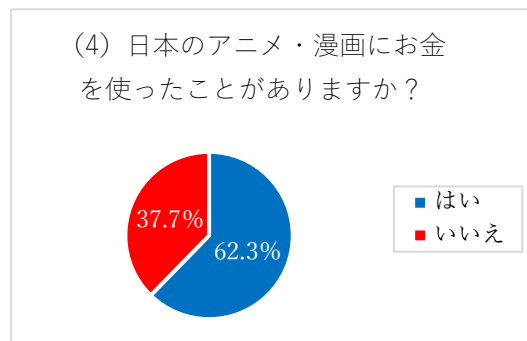


図 4

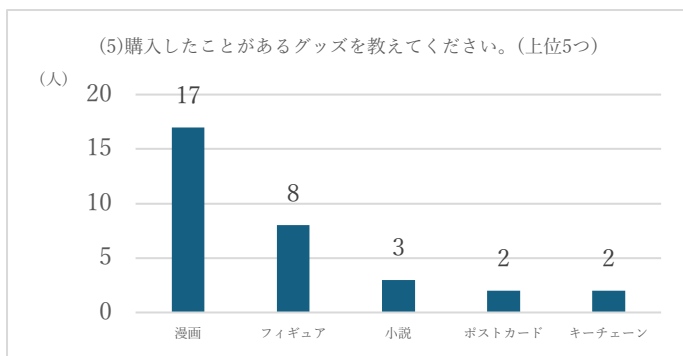


図 5

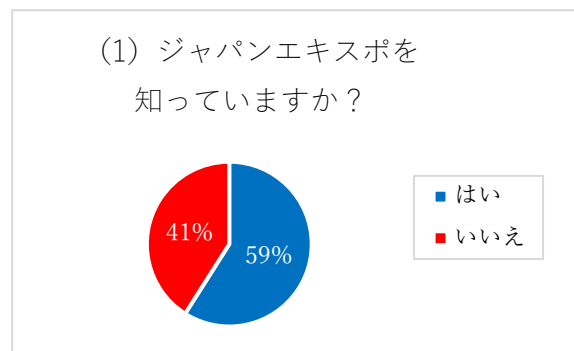


図 6

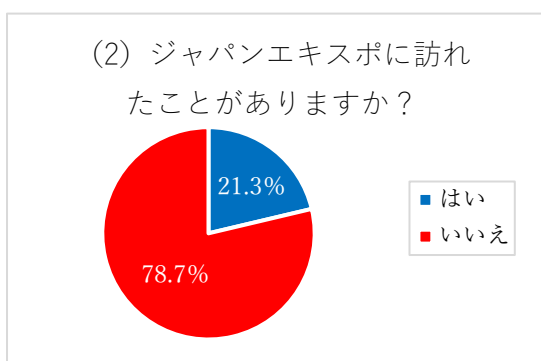


図 7

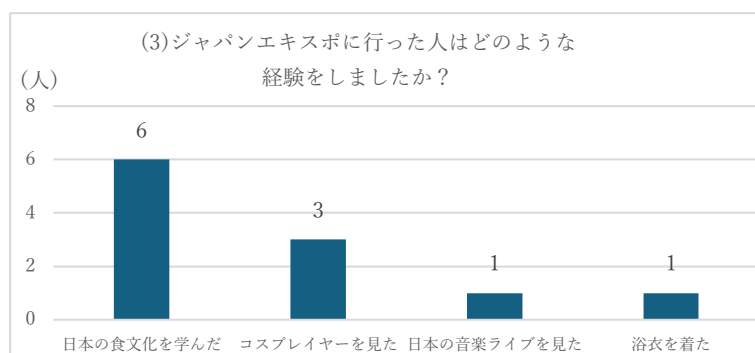


図 8

②観察調査

観察調査の中で印象に残ったものを2つ紹介する。



i) バンコクのドラえもんが供養されている神社

この写真は、バンコクのシーロム地区にあるモンティエンホテルのルアントンレストランの一角にある神社である。願い事を叶えたいなら、日本の魅力の一つでもあり、世界中で広く愛されているドラえもんの人形をこの神社に持っていくといいといわれている。子どもたちだけでなく、性別や年齢を問わず幅広い人たちに愛されている『ドラえもん』。ここでは、願いをかなえてくれる神聖なものに感謝の意を表すお供え物となる。

ii) チェンマイの日本街



これは、チェンマイのニマンヘミン地区にある「ティンクパーク・チェンマイ」というエリアで撮った写真である。ここは、日本の渋谷をイメージした区画で、日本の信号や横断歩道、日本語の看板が多く見られた。特にちびまる子ちゃんのベンチはフォトスポットになっている。

5. 考察

アンケート結果から、日本の漫画・アニメはとても人気が高いと分かる。図2では、約95%の学生が日本の漫画やアニメを知っている。図3では、約75%の学生が日本の漫画やアニメに魅力を感じている。また、図4・5では、日本の漫画・アニメに関連する商品にお金を使ったことがある学生は約62%であると分かる。主に漫画や、フィギュアなどのグッズにお金を使っている人が多い。このことから、日本の漫画・アニメはタイの学生にとって身近なものであり、日常生活にまで浸透していると考えられる。

次に、ジャパンエキスポとの関係性である。図6から、ジャパンエキスポを知っている人は59%であった。図7から、今までジャパンエキスポに行ったことがあるのは約21%である。ジャパンエキスポの認知度に対して、参加したことがある人の割合は低いといえるだろう。図8から、ジャパンエキスポでは、「日本の食文化を学んだ」という人が圧倒的に多い。「コスプレイヤーを見た」という人もいたが、漫画やアニメに関連する体験をした人が想定よりも大幅に少ないことに疑問を持った。

観察調査では、日本で昔から親しまれている国民的漫画・アニメから、最新の漫画・アニメまであらゆる年代の作品が街中やショップで見られた。特に調査結果で紹介したものは、1982年にタイの大衆紙上で「ドラえもん」の連載が始まったことや、アニメの放送が始まったことが影響していると考えられる。80年代に急速に日本の漫画・アニメがタイ社会に浸透したことで、バンコクからチェンマイまでのタイの広域で日本の作品が親しまれていることを実感できた。

6. 総括

タイの学生を対象として、日本の漫画・アニメの魅力度と、ジャパンエキスポの関係性について調査した。

認知度の高さに対して、参加したことがある人の割合が少ないことや、アニメや漫画に関連する体験をした人が想定よりも大幅に少ないことから、ジャパンエキスポでは、現在のタイの学生が興味を持っている事柄に関するブースが少ないのではないかと考える。2023年のジャパンエキスポでは、日本のアニメを取り扱ったブースもあったが、「旅・地域ゾーン」や「B to B & ネットワーキングゾーン」など学生にとって身近でないブースがあった。もっと若者向けにブースを展開していくことが重要である。

このアンケートを実施した後に開催されたジャパンエキスポ 2024 (2/2~2/4 開催) では、2023 年と比べて 2 つのブースが追加され、「アニメカフェゾーン」や「マンガゾーン」など、より日本の漫画・アニメに興味を持った人をターゲットにしたイベントになっていた。ジャパンエキスポ 2024 の開催が終わった現在、より多くのタイの学生を対象として、ジャパンエキスポに関するアンケートを実施したい。

7. 引用文献

- ・クリスティン・ロー. “世界は漫画を通して日本を見ているのか”. BBC NEWS JAPAN. 2019 年 6 月 15 日.
<https://www.bbc.com/japanese/features-and-analysis-48618569> (2024 年 5 月 1 日).
- ・箕曲在弘. “タイにおける日本製マンガの受容”. 2006 年.
[file:///C:/Users/miuco/Downloads/051%20\(3\).pdf](file:///C:/Users/miuco/Downloads/051%20(3).pdf) (2024 年 5 月 25 日).
- ・“第 9 回ジャパンエキスポタイランド開催”. タイ観光案内サイト. 2024 年.
<https://www.thailandtravel.or.jp/news/129863/#:~:text=%E3%83%90%E3%83%B3%E3%82%B3%E3%82%AF%E3%81%AB%E3%81%84%E3%81%AA%E3%81%8C%E3%82%89%E6%97%A5%E6%9C%AC,%E3%81%AB%E3%81%A6%E9%96%8B%E5%82%AC%E3%81%95%E3%82%8C%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82> (2024 年 5 月 29 日).
- ・“在タイ日本大使館も信仰?! バンコクにある「ドラえもん神社」に行けば、きっとあなたの願いも成就する…かな.” . <https://x-bomberth.com/20231207draemontemple/> (2024 年 5 月 27 日).
- ・“チェンマイの人気フォトスポット「ニマンヘミン」の日本街!” . <https://filofilo.net/archives/6710>. (2024 年 5 月 27 日).



答えは 19 ページへ!

世界で注目のタイファッション

村井美南、大木場柊哉、西田千鶴、和多田弥憂

1. 調査目的

タイのファッションは宗教上、及びブランドの観点から日本と大きく何が違うのか。

2. 背景

タイの服やアクセサリなどのファッションをネットで調べたところ、世界で注目されているという記事（※）があった。なぜ注目されているのか、その背景を探るべく調査するに至った。

3. 調査方法・調査内容

（1）事前調査 ①日本のファッション雑誌

タイと日本両国間のファッションブランドの比較を行った。

②インターネット

タイの民族衣装、フリーマーケット体験時及びタイのファッションブランドを調べた。

（2）現地調査 タイ渡航中のフリマや自由時間にファッションのお店を観察した。

現地の人々の服装を観察する。

各々調べるファッショングッズの写真を撮って記録した。

4. 調査結果

（1）それぞれのファッショングッズ

①ヘアアクセサリ・帽子

帽子は毛糸や麦わら帽子が多く売られていた。それらは、マーケットで販売されていることが多かった。大型ショッピングモールには日本でもよく見られるキャップなども販売されていた。また、糸で編まれたバンダナもヘアアクセサリとして売られていた。

タイの女子学生はリボンをつけていた。訪問したカセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）と農村の学校 Bankadwittayakom School で生徒たちが着用していた。



②かばん



かばんは、糸で編まれたものや籠バッグが多くみられた。落ち着いた色ありのものではなく、原色や派手な色が豊富なかばんが市場にたくさん出回っていた。

③ピアス・ネックレス

マーケットや寺院の周辺の店舗では、金や銀などの日本で販売されているようなネックレス、ピアスではなく、ビーズのようなもので作られた品物や仏教に関連するようなものが並べられていた。ビーズで作られたネックレスは、色とりどりで、長いものから短いものまで、種類は多岐にわたっていた。しかし、唯一イヤリングだけはどちらの場所でも見つからず、ピアスが中心であるという結果になった。



④ミサンガ・ブレスレット・リング・スマホのストラップ

ミサンガは、パステルカラーではなく、ビビット系の派手な柄や配色のものが多い。また、ブレスレットやリングはビーズで作られているものが多く、ハンドメイドを売りに出しているお店を目にする機会が多かった。ハンドメイドのブレスレットには、誕生月の石を使用したものが多い。スマホのストラップは、肩からぶら下げるタイプのものではなく、手に引っ掛けるタイプのものが多く、それらもほとんどビーズで作られていた。サンリオのキャラクターのビーズも一緒に使われているものが沢山あったので、日本の文化がタイにも浸透していると感じた。



⑤タイパンツ・ワンピース

タイパンツもワンピースもあらゆるマーケットで売られており、生地やポケットの有無などはお店によって異なっていた。模様は基本的に象の柄があしらわれており、色やデザインは様々だった。ワンピースはタイパンツよりは価格も少し高くなっていたが、オフショルダーのものや袖の有無などの形は多様で、気温の高いタイに適したデザインと生地だった。現地住民はあまりタイパンツを履いておらず、街で履いている人を見かけても観光客ばかりだった。



(2) 物価の違い

物価に関しては、タイでもコロナの影響により円安の傾向がみられたが、それでも日本の物価より安い傾向にあった。タイではおおよそ、日本の3分の1の値段でファッショングッズを購入することができる。例えば、日本のネットショッピングサイトではタイパンツはほとんど1000円から2000円で売られていた。しかしタイでは、100バーツや200バーツといった値段で売られていた。これは日本円に置き換えると400円から800円程度である。物価が安いことから、タイに旅行する観光客も多いのではないかと考えた。

(3) 売り方の違い

タイでは商品の販売方法も日本と異なった。例えば、タイパンツを購入者が買うか買わないか渋っていたら値下げしてくれる。また、購入者が値下げ交渉をしたらほとんどのお店の人が値下げしてくれる。さらに、タイパンツ2つ買ってくれたら1つ買うより安く買えるような提案もしてくる。日本では、こんなにも即興で割引してくれることはあまりないため、差異が明確であった。

もう一つ、日本との違いに気づいた点がある。それは、日本ではアパレル系のお店は、基本的にドアがついているが、タイの店舗には、ドアがないということだ。これは、購入者がお店に入りやすくするためではないかと考えた。また、ドアや囲む壁がないことで商品も見渡しやすくなっており、どのようなものが売っているのか一瞥して知ることができる。これらのことが日本と違う販売方法であると考えた。

(4) 宗教上のファッション

タイでは仏教が信仰されているが、それはファッションの分野にも表れていた。ホストファミリーのなかで、大仏のネックレスをしていた家族がいた。このネックレスは常に身に着けていた。ネックレスを付けている家族は仏教の信仰が強いのかなと考えた。

(5) タイ発の今注目のファッションブランド

タイの首都バンコクでは世界中でも注目のファッション都市であり、世界中のバイヤーたちが集う場所である。日本ではあまり見られない組み合わせのポップな色使いや刺しゅうなどが凝って作られた服が多い。

①Kloset(クローゼット)

2001年にタイで創業されたブランド。タイセレブには御用達で日本でも多くの芸能人やモデルが来ている注目のブランド。ビンテージの影響を受けたレトロなデザインと、ポップな色使いが特徴的である。洋服はすべてハンドメイドでクオリティーが高い。

着用していた芸能人 モーニング娘 牧野真莉
アーティスト 西野カナ



②Jim Thompson(ジム・トンプソン)

タイシルクを世界へ広めたタイを代表するファッションブランド。アメリカの実業家ジム・トンプソンがタイのシルク製品に魅了されたことから始まり、衰退していたタイシルク文化を復興させて世界に広めたことで有名。質の良いタイシルクで作られた肌触り、高級感がある。



(6) 民族衣装

タイの民族衣装は女性が着用するシワーライと男性が着用するスア・プララーチャターンがある。シワーライは、美しい綿やシルクで作られた四角の布を胸に巻くサバイと、筒状のスカートのパ・ヌンで構成されている。タイの北部、東北部、南部、中部と、地域によってサバイの巻き方やデザインが異なる。スア・プララーチャターンは、シルクで作られたスタンドカラーの立ち襟がついたジャケットとシルクでできたタイパンツで構成されている。タイパンツには長ズボンや膝丈タイプのものであり、様々な柄や刺しゅうが施されている。

タイの民族衣装は時代によって多様に変化した美しいデザインが特徴。14～18 世紀に渡って最も長く続いた王朝のアユタヤ朝に着用されていた伝統衣装が現在のタイの衣装として語り継がれている。また、地域によって民族衣装の着方やデザインが異なっている。それは、それぞれの地域にあるで起こった独自の文化が反映されたためである。



5. 考察

和服とは、日本の服で、日本の伝統的な民族衣装のことを意味する。日本の伝統的な服と言えば着物や浴衣、袴や甚平等がある。しかしこれらは日常的に日本では着られていない。この事実はタイでも同じであった。日本では結婚式やお祭りなど行事で和服を着ることがある。タイでも結婚式や催祭事で着る。私たちが農村の学校でタイの衣装を着せて下さったのも、お祭り行事があったためであると考えられる。特別な時に伝統衣装を着るという行いは同じであると考えた。

また、タイは宗教色が強く、信仰心が色濃く表れていると感じた。日本は時期やイベントごとにさまざまな宗教を取り入れているため、タイほど宗教色強めのものは売られていない。タイでは、托鉢のように日頃から仏教を感じる機会が多いため、服装等にも出てくるのではないかと考察する。

さらに、日本での私服は洋服が主流になっている。それはタイでも感じられたことであるが、両国間で好みが異なると考えた。日本では GU やユニクロで売られているような無地で落ち着いた色が多い。一方でタイは、様々な模様や鮮やかな色を取り入れた服が多い。

6. 総括

気温の高いタイのファッションは、日本でも使いやすいものである。したがって、タイパンツだけでなく、タイの民族衣装をモチーフにしたブランド展開もアジア諸国にマッチするのではないかと考える。日本では浴衣や甚平をモチーフにした、ファッションブランドができています。それをタイの色鮮やかな民族衣装をモチーフに作ることも良い。

宗教の違いを理解して尊重することが大切である。現在の多様な社会において、ファッションという角度からも宗教の違いを理解できるのではないかと考える。ファッションを通じて、文化の違いを肌で感じ、自国の文化との違いを楽しむ。また、異なる文化を組み合わせることで新しいファッションを創造することも可能であろう。

7. 引用文献

- ・ (※) asiMa オフィシャル. “【タイ発の洋服】今注目のファッションブランド 10 選!” . 2022 年 6 月 28 日. <https://www.asima-shop.com/articles/75>, (2024 年 5 月 10 日).
- ・ NEWT 編集部. “タイの民族衣装！歴史や特徴、観光も楽しめるスポットを紹介” . 2023 年 10 月 2 日. <https://newt.net/tha/mag-9740851059>, (2024 年 5 月 10 日).
- ・ ViVi 編集部. ViVi2023 年 8 月号. 講談社. 2023 年 6 月 22 日, 168 ページ.

なんだこれ?! クイズ!

A. ヤードム



植物由来のアロマ。タイでは
1人1本持ってるアイテム。
スースーして気分すっきり!

日本とタイの中高生では、職業に対する価値観に差があるのか

片田江奏花・西口真菜美・猿田夏実

1. 調査目的

タイの高校生に職業に関するアンケートを行い、日本とタイで職業に対する価値観の違いを調査する。また、都市部にあるサティカセ MP と農村部にある Bankadwittayakom school の 2 つの高校で調査をするにあたり、都市と農村における意識の違いも調査する。

2. 背景

子供の将来の夢は、周りの環境が少なからず影響している。そのため、国の違いや経済格差、住んでいる土地との関連性を調査した。

3. 調査方法・調査内容

【事前調査】

◆将来なりたい職業【複数回答形式(3つまで)】※中学生の回答結果を表示

男子中学生(n=100)			女子中学生(n=100)		
順位	職業	%	順位	職業	%
1位	YouTuberなどの動画投稿者	23.0	1位	歌手・俳優・声優などの芸能人	17.0
2位	プロスポーツプレイヤー	17.0	2位	YouTuberなどの動画投稿者	16.0
3位	社長などの会社経営者・起業家	15.0	3位	絵を描く職業(漫画家・イラストレーター・アニメーター)	14.0
4位	ITエンジニア・プログラマー	13.0		美容師	14.0
5位	ゲーム実況者	12.0	5位	ボカロP(音声合成ソフト楽曲のクリエイター)	11.0
	公務員	8.0		デザイナー(ファッション・インテリアなど)	11.0
6位	会社員	8.0	7位	看護師	10.0
	プロスポーツ選手	8.0		保育士・幼稚園教諭	10.0
9位	教師・教員	7.0	9位	ショップ店員	9.0
	ボカロP(音声合成ソフト楽曲のクリエイター)	6.0	10位	ゲーム実況者	7.0
10位	弁護士、裁判官など法律関係	6.0		カウンセラーや臨床心理士	7.0

図 1

事前調査では、日本国内の子供達の職に対する価値観についての情報を採した。ソニー生命が 2021 年に、日本の中高生を対象に「安定した仕事に就いている」と「好きなことを仕事にしている」のどちらが幸せだと思うか調査したところ、中学生、高校生ともに『好きなことを仕事にしている(計)』(中学生 62.0%、高校生 54.1%) が多数派であったため、日本の中高生の多くは、自分の好きなことを仕事にする将来を志向している“と分かった。添付している図 1、図 2 は日本国内の中高生が将来なりたいと考える職業ランキングを男女別に記載したものである。

◆将来なりたい職業【複数回答形式(3つまで)】※高校生の回答結果を表示

男子高校生(n=400)			女子高校生(n=400)		
順位	職業	%	順位	職業	%
1位	YouTuberなどの動画投稿者	15.3	1位	公務員	11.5
2位	社長などの会社経営者・起業家	13.5		看護師	11.5
3位	ITエンジニア・プログラマー	13.3	3位	教師・教員	10.3
4位	公務員	12.0		歌手・俳優・声優などの芸能人	10.3
5位	教師・教員	9.5	5位	保育士・幼稚園教諭	9.8
6位	ゲームクリエイター	6.8	6位	会社員	9.0
7位	ものづくりエンジニア(自動車設計や開発など)	6.5	7位	ショップ店員	8.0
	ボカロP(音声合成ソフト楽曲のクリエイター)	5.8	8位	YouTuberなどの動画投稿者	7.5
8位	プロスポーツプレイヤー	5.8		マスコミ関係(記者・TV局スタッフなど)	7.5
	ゲーム実況者	5.8	10位	デザイナー(ファッション・インテリアなど)	7.2

図 2

重視していることが分かる。

これらを踏まえて、調査班では、タイと日本の中高生との間には職業に対する意識に違いがあるのではないかと予測し、現地にてアンケート調査を行った。さらに、タイの都市部と農村部において経済状況や環境の差から職業に対する意識に差異があると仮説を立て、比較を行った。

【現地調査】

都市部（チョンブリー）： Google フォームを使ってサティカセ MP の高校生 66 人にアンケートを実施。

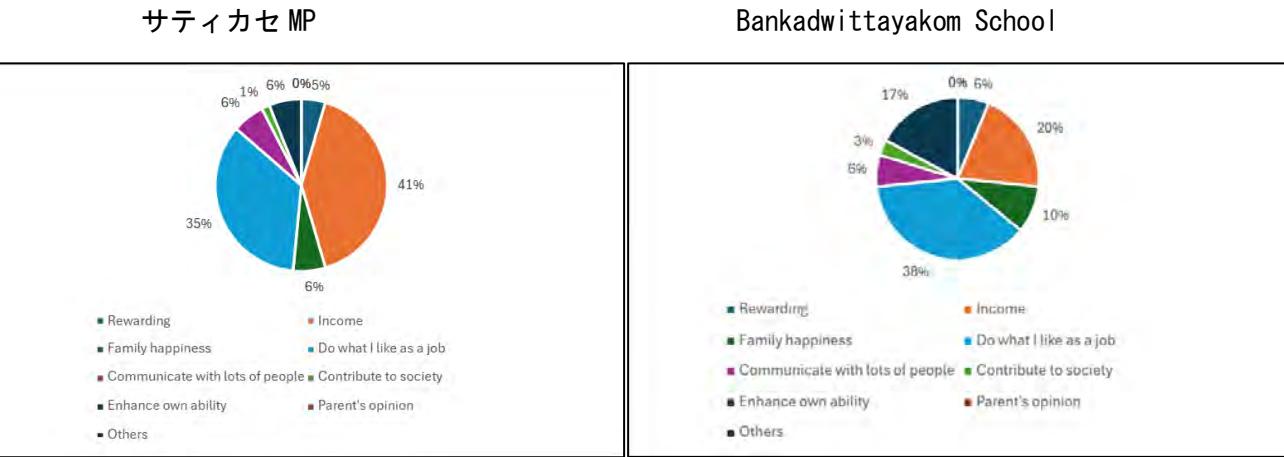
農村部（チェンマイ）： Bankadwittayakom School の中学３年生と高校１-２年生計１１人に紙媒体でのアンケートを実施。

【アンケート内容】

- Q1. あなたが仕事において最も重要視しているものは何ですか？（選択式）
- Q2. Q1 についてなぜそう思ったのですか？
- Q3. タイで裕福または、安定した生活を送ることができる職業は何ですか？
- Q4. タイで不安定な収入の職業は何ですか？

4. 調査結果

Q1 あなたが仕事において最も重要視しているものは何ですか？（選択式）



Q2 Q1 についてなぜそう思ったのですか？

サティカセ MP

収入 (Income) 41%	収入は世界で最も重要なものだから。
	好きな仕事をしても収入が足りなければ、生活が苦しくなるから。
	所得は幸福の基礎であるから。
やりがい (Rewarding) 5%	仕事とは、報酬とお金を得るためにするものだから。
	仕事に対する対価として重視しているから。
家族の幸せ (Family happiness) 6%	幸せとはすべてであるから。
	収入を増やすより、幸福を手にいれたほうが良いから。
好きなことを仕事にできるか (Do what I like as a job) 35%	1番好きなことをしたいから。
	年を取ってからもその仕事をするから。
	それが安定した収入につながるから。
多くの人とコミュニケーションをとれるか (Communicate with lots of people) 6%	コミュニケーションスキルがあれば自分のメリットになるから。
	友人を作るために重要なスキルだから。
社会貢献 (Contribute to society) 1%	すべての仕事は社会に貢献し、有益なものであるべきだから。
	益々難しくなっていく仕事をこなすには自分の能力を上げなければならないから。
自身の能力の向上 (Enhance own ability) 6%	能力が上がれば上がるほど、自分の価値も上がるから。
	親の意見 (Parent's opinion) 0%
	回答者なし

Bankadwittayakom School

収入 (Income) 20%	人生を豊かにしてくれるから。
	お金がないと何もできないから。
	今の社会にはお金が必要だから。
やりがい (Rewarding) 6%	見返りが得られないと自分が苦しむから。
	退職金が手に入るから。
家族の幸せ (Family happiness) 10%	キャリアは自分を幸せにするから。
	家族が支えになるから。
好きなことを仕事にできるか (Do what I like as a job) 38%	好きな仕事は常に幸せになれるから。
	自分の仕事に満足できるから。
多くの人とコミュニケーションをとれるか (Communicate with lots of people) 6%	コミュニケーションスキルがあれば自分のメリットになるから。
	友人を作るために重要なスキルだから。
社会貢献 (Contribute to society) 3%	社会貢献したらみな自分が自分を愛してくれるから。
自身の能力の向上 (Enhance own ability) 17%	能力が上がると幸せにつながるから。
	スキルを上げようとするその過程で色々なことに気づけるから。
親の意見 (Parent's opinion) 0%	回答者なし

Q3 タイで安定した生活を送ることができる職業は何ですか？

サティカセ MP (一部抜粋)

医者	9
政府関係者	5
実業家	5
投資家	4
起業家	3

Bankadwittayakom School (一部抜粋)

医者	19
政府関係者	7
自営業	6
教師	5
王室関係者	3

Q4 タイで不安定な収入の職業は何ですか？

サティカセ MP (一部抜粋)

フリーランス	12
アーティスト	5
タクシードライバー	4
インフルエンサー	4
一般職	3
労働者	3

Bankadwittayakom School (一部抜粋)

農家	8
一般職	7
ペット販売	4
フード販売	3
フリーランス	3
ゴミ収集	3

5. 考察

まず、日本とタイの中高生間の職業に対する意識を考察する。事前調査の結果から日本の中高生が重視している点は、安定した収益を得ることができるかどうか、好きなことをできるかどうかであることが分かっている。現地で行ったアンケート結果からタイの中高生が重視している点は、収入と好きなことをできるかどうかであるという傾向がみられた。この結果から、日本とタイとの中高生との間には職業に対する意識について大きな差異はみられないことが分かった。

次に、タイの都市部と農村部の考察を行なった。Q1の結果を見ると、都市部においては仕事で最も重要視する項目は「収入」であったが、農村部では「好きなことを仕事にできるかどうか」に最も高い票数が集まった。続いて、Q3・Q4の回答を比較すると都市部と農村部で安定した収入を得ることができる職業に大きな差は見られなかった。収入が不安定な職業として、農村部では農家やペット販売など都市部には見られない職業が含まれていた。この結果から、子供達の生活する環境の中で影響される又は身近に存在する職種によって、都市部と農村部の2つの地域でこのような違いが出ていると言える。

6. 総括

調査を通して学び、反省した点は主に2つある。第一に、調査目的としていた内容に対して、予測していた調査結果が見られなかった点である。日本国内では、子供達の育った生活環境や両親の職業が、子供達の将来の夢や職業に影響しているという情報を耳にした。それを元に、子供達の職に対する価値観が現地の経済や環境の差と関連しているのではないかと仮定し、調査目的を掲げた。しかし、実際に現地調査を行うと都市・農村部の環境の違いは実感したものの、その気づきをアンケート結果と関連させるだけの情報と証拠を見つけ出すことは出来なかった。それ以上に、アンケート結果を都市・農村部で比較したところ、大きな差がなかった。同様に、日本とタイを比べても著しい差は見られなかった。必ずしも予想していた結果を得られることは出来ないと実感した。第2に、農村部で行なったアンケートを紙媒体としたが、データ化する際に解読が困難であった点である。都市部では生徒が各自デバイスを持っていると予想しGoogle Formにて回答収集を行なったが、農村部では手書きでの回答方法を用いた。予想通り、都市部では生徒は全員各自の携帯を持参しており、回答をスムーズに集計することができた。他方、農村部では携帯を持っていない生徒もいたため、紙媒体での回答方法は適していたが、結果を判読しやすくする工夫が求められる。

7. 引用文献

https://sripasa.com/monthly_income_thai

中高生が思い描く将来についての意識調査 2021. (2021) .ソニー生命.

https://www.sonylife.co.jp/conihonmhpany/news/2021/nr_210729.html.

チャンス・フォー・チルドレン. (2017) . 子供の貧困と将来の夢.

<https://cfc.or.jp/archives/20809>.

สวัสดีค่ะ

【サワディーカ】

意味：こんにちは

タイの挨拶といえばこれ！
男性は「サワディークラップ」だよ

อร่อย (มาก)

【アローイ (マ)】

意味：(とても) おいしい

ホストマザーに言ったら喜ばれた！
マンゴー、アローイ マ！！



答えは29 ページへ！

日本におけるタイの化粧品の流行と新たな可能性

酒井優衣、柳瀬薫奈、石川麻夢

1. 調査目的

美容大国のタイの化粧品が 2023 年に日本で流行している（さくらばかおり, 2023）。その理由を探ることによって、日本におけるタイの化粧品の新たな可能性を発見する。

2. 背景

近年、日本の YouTube や SNS で、タイの化粧品や、スワイメイクと呼ばれるタイのメイクアップが紹介されている。そこで、日本でタイの化粧品が紹介されるようになったのかという疑問が浮かんた。また、タイは、美容大国であるという記事がある（高橋学、2021）。美容大国のタイにおいて、どのような化粧品が人気で、どのようなメイクアップが施されているのか、実際に現地で確かめたいと思った。

3. 調査方法・調査内容

事前調査では、日本にタイの化粧品が上陸した経緯に関する文献を収集し、共通点を導き出し、なぜタイの化粧品が日本で流行した背景を明らかにした。また、インターネットで、人気のあるタイの化粧品を、ベースメイク、アイメイク、リップメイクの 3 つの部門に分けて調べた。また、各自調べてきたことを共有し、タイの化粧品とその代表的な商品を把握した。

次に、渡航前に、事前に Google Form で作成したアンケートをカセサート大学付属高校マルチリンガル・プロ

(1) おすすめのタイの美容系 Youtuber を 2 人教えてください。

(2) おすすめの化粧品ブランドを教えてください。

① ベースメイク

② アイメイク

③ リップメイク

グラム校（以下サティカセ MP）に送り、生徒 60 名にタイの美容系 Youtuber 2 人とおすすめの化粧品のブランドをベースメイク・アイメイク・リップメイクに分けて、タイ語でアンケートを取った。アンケートの内容は左図の通りである。

現地では、フリータイムに、事前調査で調べたタイの化粧品や化粧品のブランドを確認し、気になったものを試した。また、化粧品売り場の店員さんや空港のキャビンクルーさんを見てタイのメイクアップのポイントを確認した。

4. 調査結果

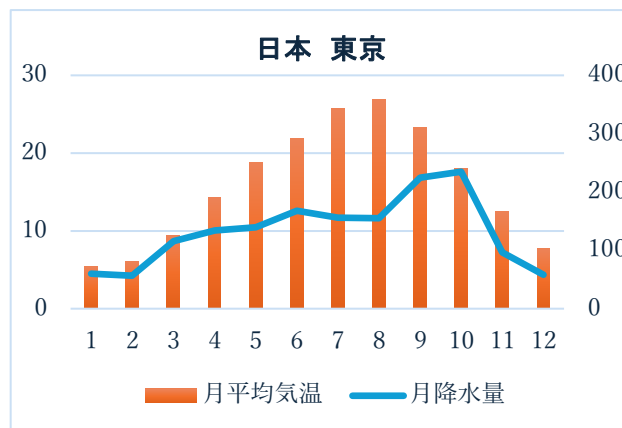
(1) 事前調査

①タイの化粧品が日本で流行した理由として、主に、以下 3 点の影響がある。

i) 気候

タイの化粧品は、高温多湿に特化しており、湿気や汗でもメイクが崩れず、さらっとした肌が持続することが特徴である。タイの気候は年間平均気温が約 29 度、5 月から 10 月の間に降水量が多くなる。一方、日本の夏の時期は平均気温 25 度以上で、タイと同様に 5 月から 10 月の間に降水量が多い。このことから、タイの気候は日本の夏の時期の気候に似ており、高温多湿な気候という共通点がある。

共通点から、近年、日本の夏の時期にタイの化粧品が注目を浴びている。実際に、タイの化粧品を使用している日本人からは「タイの化粧品を使い始めてから、夏のメイク崩れが減った」という声が多く寄せられている。特に、脂性肌や汗をかきやすい方にとって、タイの化粧品は大きな助けとなるだろう。このように、高温多湿に対応しているタイの化粧品は暑く湿度の高い日本の夏に最適である点が、タイの化粧品が日本で流行したきっかけとなった。



ii) 新型コロナウイルス

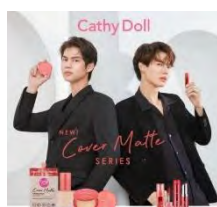
株式会社ナリス化粧品は、2021年のコロナ禍により、マスクの常時着用が定着した当時の女性のメイクの使用実態調査を行った。その結果から、ファンデーションを使用していない女性が11.5%から21.3%に増えたことが分かった。ファンデーションを使用しなくなった理由は、「マスクをつけるから」と「メイクそのものをする気がしないから」が同率1位で、約3割である。マスクをするため、蒸れてメイクが崩れてしまうことや、顔の下半分が隠れることなどが原因で、メイクの事情が変わっていったと考えられる。その中で、タイコスメのパウダーは素肌感があり、粒子が細かくて皮脂をしっかりおさえてくれるので、マスクで蒸れてもメイクが崩れないとSNSを中心に評判になり、世間から注目を浴びた。

また、顔の半分がマスクで隠れることにより、目元を強調するポイントメイクが注目された。マスクをしていてもメイクが映えるように明るめの色のアイカラーを使う人、眉毛をよりハッキリ描く人が増えた。タイメイクの特徴としては、ナチュラルだがしっかり太めの眉(アイブロウ)に、まつ毛はぱっちり上げて、アイライナーを引き、意志の強い目元が作れるアイメイクが人気である。こうしたコロナ禍におけるメイクの変化と、タイメイクの特徴がマッチし、日本で注目されたのではないかと考える。

さらに、海外のコスメは旅行した人のSNSを通じて注目されることが多かったが、コロナ禍で海外へ行けないため、国内に新しい海外ブランドが次々に流入し、通販サイトも増えた。そのため、タイコスメも気軽に購入することができるようになったことも日本で流行り始めた理由の一つである。

iii) タイのドラマ

日本では、NetflixやUNEXTなどの動画配信サービスをから、タイのドラマを視聴できるようになり、出演するタイ人の俳優の人気の高まっていった。そして、タイの若者に人気の化粧品ブランド「Cathy Doll」が2020年、学園ラブストーリー「2gether」の主人公を務めた俳優のBrightさんとウィンさんを宣伝に起用している。彼らのInstagramには、2024年6月10日現在、合計で3038万人のフォロワーがいるほど世界的にも大変人気がある。また、2023年に日本で行われたタイフェスには、この2人が来日して、多くの日本のファンが駆け付けた。タイフェスでは、化粧品も販売されており、タイドラマをきっかけにイベントに訪れた人も多いと考えられる。このように、タイのドラマの人気の、日本においても、タイの化粧品の人気を後押しした。



Brightさん・WinさんのInstagramより(2024年6月10日現在)

②タイの化粧品について

i) ベースメイク

特徴) メイク崩れを防ぎ、透明感のあるサラサラ美肌に導くパウダー。汗をかいても崩れないと日本で話題になっている。

例)・SRICHAND/トランスルーセントパウダー

ii) アイメイク

特徴) タイの化粧品ブランドのアイシャドウは、どれも高発色で、色持ちがいい。

例)・4U2/アイシャドウパレット

・Baby Bright/シャインアイシャドウパレット

・Frunflynn/アイシャドウパレット

iii) リップメイク

特徴) タイのリップメイクは、落ちにくいことが大前提で、セミマットな質感が人気。

例)・Cathy Doll/リップアンドチーク ノードマットティント

・SO GLAM/ブラーホィップドリップティント

(2) 現地調査

①アンケート結果 (投票数が多いもののみを掲載)

おすすめの美容系 youtuber

・Nutties (14 票)

・Soundtiss (26 票)

おすすめの化粧品ブランド(タイの化粧品ブランドには限らない)

ベースメイク	アイメイク	リップメイク
Dior	CANMAKE	Romand
CANMAKE	tarte	Dior
4U2	dasique	4U2

②タイの化粧品売り場の様子

タイの化粧品売り場は日本の陳列方法と似ており、CANMAKE や CEZANNE などの日本の化粧品ブランドも見られた。また、日本ではあまり見かけない「一つ買うともう一つ無料」(1buy1)の制度があり、日本より低価格で購入できる化粧品が多かった。さらに、化粧品のモデルには男性がよく起用されており、男女ともに使用できる化粧品が多いという印象を受けた。



5. 考察

タイの化粧品が日本で流行する理由として、気候が似ていること、マスクをしていても化粧が崩れないこと、タイのドラマが日本で配信されていることであると分かった。日本の夏の気候は、年々気温が上昇しており、マスクをする人が少なくなった今日でも、崩れにくい化粧品は需要がある。また、最近では、タイの化粧品会社が日本でもイベントを開催していることで、タイに旅行に行かなくても、タイの化粧品を使うことができる。この

ことから、今後、タイの化粧品が日本で日常的に使用されるようになるという可能性を秘めていると考える。さらに、タイの化粧品売り場ではいくつかの化粧品会社が男性を宣伝に起用していた。タイの化粧品は、男性にも使いやすいようになっている。したがって、タイの化粧品は、ジェンダーにかかわらず、日本でも多くの人に実用化してもらえるものであると調査を通して考えた。

6. 総括

今回の調査は、1年前、「タイの化粧品が日本で流行っている」という記事を見たことをきっかけに始まった。当初は、タイの化粧品が「偶然日本で流行っただけだ」と思っていた。しかし、調査をしていくと、気候、化粧品が崩れないこと、タイのドラマが流行の主な要因であると分かった。また、実際に、タイでの化粧品の調査を通して、日本ではまだ流通していない化粧品ブランドを知ることができ、タイの化粧品売り場の雰囲気を感じることもできた。

この調査を行って、良かった点は、日本でタイの化粧品が流行った原因や実際にタイの化粧品を見てみたこと、また、生徒たちにタイの化粧品ブランドを教えてもらったことで、今後、タイの化粧品がどのように活躍していくかをより深く探求できたことである。そして、反省点は、インターネットがつながっていなかった為、Bankadwittayakom School の生徒たちにアンケートを取る予定だったが、取れなかったことだ。従って、サティカセ MP の学生たちのみの調査結果になってしまったため、結果に偏りがでてしまった。

最後に、これからタイに行く人やタイの化粧品に興味を持った人がこの調査結果を参考にして、タイの化粧品を利用してほしいと考える。

参考文献

- ・さくらば かおり、“Z 世代の新トレンドはタイコスメ？独自の進化を続けるタイ流コスメの魅力まとめ”、マナミナ、2023年8月15日、<https://manamina.valuesccg.com/articles/2613>、(参照2024年5月6日)
- ・高橋学、“韓流コスメの次は「タイコスメ」 Z 世代が爆買いする 3 つのワケ”、日経トレンド、2021年4月、<https://xtrend.nikkei.com/atcl/contents/18/00019/00030/>、(参照2024年5月6日)
- ・アジア系海外コスメのネクストブーム、タイコスメ「SRICHAND(シーチャン)」日本初上陸秘話、PRTIMES STORY、2020年12月17日、<https://prtimes.jp/story/detail/zxg9jLfJJ3b>、(参照2024年10月8日)
- ・株式会社日本機能性コスメ、“タイ No.1*フェイスパウダーブランド「SRICHAND(シーチャン)」タイ俳優プレゼンターの豪華イベントやメイクアップイベントを開催”、PR TIMES、2023年9月31日、<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000087.000043421.html>、(参照2024年5月6日)
- ・HIRO BEAUTY CHANNEL“【スワイメイクTH】2023 年絶対流行る！！誰でも確実に盛れるのに崩れにくいタイメイク(=スワイメイク)のご紹介よ〜♡”、<https://www.youtube.com/watch?v=VYvOJurGIhs>、
- ・最も重要なメイクアイテム「アイシャドウ」の女性、倍増 メイクの使用実態調査、コロナ前後 2000 人比較、ナリス化粧品、2021年10月20日、[20211020_MASK-make.pdf \(naris.co.jp\)](https://naris.co.jp/20211020_MASK-make.pdf)、(参照2024年7月8日)

♡紹介したタイの化粧品ブランドホームページ♡

タイには、ユニークな化粧品がたくさんありました。自分なりのタイの化粧品の良さを見つけて、ぜひ日常に取り入れてみてください！

- ・SRICHAND (シーチャン) <https://srichand.co.th/en/brands/srichand>
- ・4U2 (フォーユーツー) <https://www.4u2thailand.com/>
- ・Cathy Doll (キャシードール) <https://cathydoll.me/>
- ・Baby Bright (ベビーズライト) <https://babybright.om/>
- ・frunflynn (フルンフリン) <https://frunflynn.com/>
- ・SO GLAM (ソーグラム) <https://www.soglamcosmetics.com/>
- ・tarte (タルト) <https://maison.kose.co.jp/site/tarte/c/c73/>

なんだこれ?! クイズ"

A. ドリアン



「果物の王様」と呼ばれる、タイで人気の果実。匂いが独特で、ドリアン味のアイスは強烈！！

第二章

交流企画



カセサート大学附属学校マルチリンガル・プログラム校

Bankadwittayakom School 縁日交流企画

「日本のお祭りを楽しもう！」

柳瀬薫奈、村井美南、森田茉桜、和多田弥憂

1. 企画概要

Bankadwittayakom School にて、日本のお祭りの屋台をイメージしたブースを4つ作り、タイの生徒に各ブースをまわってもらい企画を楽しんでもらう。福笑い、味噌汁、習字、風鈴作りの4つのブースを準備した。

2. 企画目的

タイの生徒に日本文化を実際に体験して楽しんでもらう。また、企画を通して TP11 期とタイの生徒が沢山コミュニケーションをとり、仲を深める。

3. 事前準備

企画に必要な物品は事前に作成した購入リストに基づき購入。習字の物品に関してはカセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の習字班が準備した物品を再利用した。各ブースの看板、福笑いのパーツ、風鈴作りに使用するパーツは、当日すぐに使用できるように事前に作成した。事前合宿では、ブースごとに物品準備や実際に風鈴を作成した。



4. 実施内容

(1) 役割分担

福笑いと習字のブースは3人、味噌汁のブースは2人、風鈴作りのブースは4人、全体を見る人が1人で担当し、それぞれのブースの忙しさを考えて役割分担した。当日は習字ブースが人手不足だったため、全体を見る人にも習字ブースで活動してもらった。

(2) 運営方法

生徒を4グループに分け、各ブース20分で時計回りにまわってもらった。休憩時間に関しては味噌汁のブースがあったため設けなかった。日本のお祭りの雰囲気味わってもらうために、TPメンバーは法被を着用して運営した。時間内に企画が終了した場合は、折り紙を使用して楽しんでもらった。

(3) 各ブースの内容

ブース	内容	事前準備	当日の流れ
福笑い	動物のイラストを使用した福笑いをしてもらう。	動物の福笑いのテンプレートを印刷し、パーツを作成。福笑いに合わせて目隠し用の可愛い動物のアイマスクを購入。	3人1組になって順番に福笑いをする。アイマスクをしている人以外は、パーツの位置を言葉だけでアドバイスしてアイマスクをしている人の手助けをする。
習字	好きな日本の言葉を選択してもらい、見本を参考にしながら実際に筆で書いてもらう。	習字の見本、筆、半紙、墨汁、下敷き用のファイルはサティカセ MP の習字班が準備したものを再利用。追加の半紙と墨汁、紙エプロン、雑巾、ウエットティッシュ、墨汁を入れる用の紙コップは購入。新聞紙、ゴミ袋、ティッシュは日本から持参。	生徒に好きな日本の言葉を選択してもらう。選択した言葉の見本を参考にしながら、1人につき半紙2枚を配布して習字をしてもらう。
味噌汁	日本の伝統的な料理のひとつである味噌汁を実際に体験してもらう。	味噌汁の素、容器として使用する紙コップ、割り箸は購入。お湯、椅子は事前に学校側に依頼した。	紙コップに味噌汁の素を入れる。生徒が来たら、紙コップにお湯を入れ割り箸と一緒に渡す。椅子に座ってもらい、味噌汁を飲んでもらう。
風鈴作り	紙コップを用いたオリジナルの風鈴を作ってもらう。	紙コップ、様々な色の糸、鈴、ビーズ、色ペンを購入。事前に日本で紙コップは底に穴を開け、糸は使用する長さに切っておいた。	生徒は TP メンバーの説明を聞いて風鈴を作成。できたら色ペンを用いて紙コップに好きなようにお絵描きをする。

5. 振り返り

(1) 福笑い

ルール説明用紙を準備したおかげで最初の説明がスムーズに出来た。グループを作って行ったため福笑いを自分の時だけではなく、友達がやっているのを見て楽しんでくれていた。しかし、多くの生徒が日本の伝統的な遊びに触れた点は良かったが、盛り上がりには少し欠けたところもあった。ルールに勝ち負けがあるとゲーム性がでて面白くなると思った。

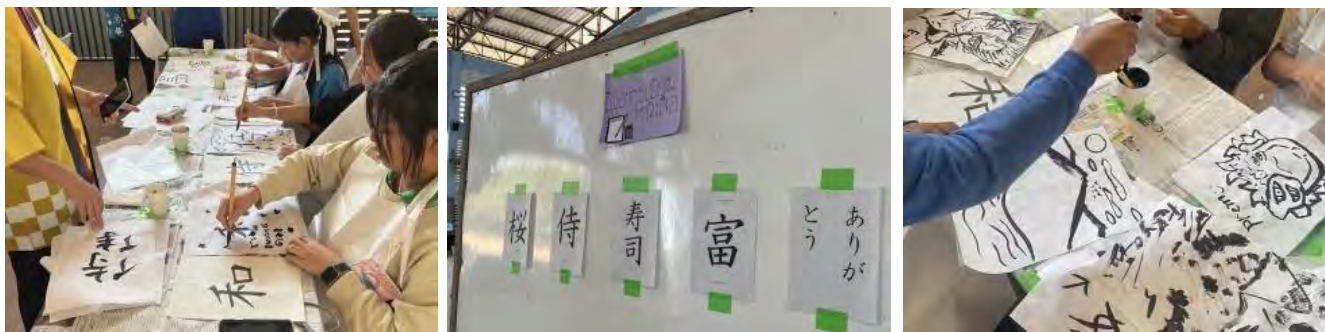
また、近くに折り紙ブースがあったため、福笑いで時間が余った生徒に折り紙を提供した。特に折り紙はハートと飛行機に人気があった。そのため、折り紙も福笑いも両方楽しんでもらえたと思う。



(2) 習字

準備していた文字だけでなく生徒自身の名前を日本語で書いてもらったり、時間が余ったら好きなイラストを描いてもらったり、筆や墨汁を使うことに親しんでもらえた。生徒が描いていたイラストは日本の漫画やアニメのキャラクターのものが多く、日本の作品がタイでも人気があることを実感した。また、習字班の中での役割分担は事前に決めていなかったが、連携を取って臨機応変に動けたことが良かった。

しかし、習字ブースの準備が終わる前に縁日企画の時間が始まったことにより生徒を少し待たせてしまった。さらに、生徒が選ぶ習字の文字に偏りがあったため見本の紙が足りなかったことや、日本から持ってきた墨汁の本数が多くたくさん余ったことなど、準備時にもっと当日の流れを想定して改善できた部分もいくつかあった。



(3) 味噌汁

大半の子が説明を聞いて、初めての味噌汁に挑戦してくれた。タイ語のアレルギー表示があったことは良かった。そして、味噌汁を初めて飲んだ後の余った時間は何をすれば良かったか分からなかったが、調査班のアンケート記入で時間を埋めることができた。現地の先生や EDF さんも飲んでくれていて良かった。

しかし、タイには、塩辛い食べ物があまりないからか、総じて味噌汁のウケは悪かった。口に合わなかったのか、量が多かったのか、熱かったのかわからないけれど、捨てていた生徒もいた。そこで、おにぎりを一緒に作るなど、味噌汁が気に入らなかった時のために日本食を用意しておいた方が良かったと思った。味噌汁が口に合わなかった子との会話が気まずかった。だが、タイ人は甘い物好きであるので、日本の甘い食べ物は好まれそう。また、タイは暑いので、冷たい食べ物が良いと思った。一方で、縁日の味噌汁を知って、好きになってくれた子もいた。おいしいと言って、リピートしてくれた生徒もいた。今後も食べ物ブースはあった方が良くと思う。



(4) 風鈴作り

風鈴作りに必要なパーツを用意していたことで、スムーズに生徒全員に配ることができた。パーツも自分の好きな色を選んだり、紙コップに自由に絵を描いたりできたので、自然と生徒との会話も生まれてコミュニケーションをたくさんとることができた。

作り方の説明をする前に、パーツを受け取った時点で自分で作り始める生徒がいたので、最初にしっかりと説明を聞いてもらえるように工夫が必要だった。また、説明の仕方も事前にシナリオを作っておくなどして、より分かりやすく伝えられるようにすべきだった。

紙コップに絵を描く際に、日本のアニメや漫画のキャラクターを描いてくれる生徒がとても多く、日本のことを好きでいてくれていることを実感できた瞬間だったし、みんな絵もとても上手で、いい作品ばかりだった。

(5) 全体

ブースのローテーションに関しては現地の先生が時間を計って報告してくれたため、スムーズに実施することができた。ブースで時間が余ったときは、それぞれの担当が臨機応変に対応して学生を楽しませる

ことができた。反省点は、ブース設営の準備の時間が足りなかった。また、事前に現地の先生と打ち合わせができていなかったため、縁日の事前説明を行う前に始まってしまい、縁日がどのようなものか、どのようなブースがあるかを説明できなかった。



6. 後輩へのアドバイス

まず、日本から持参する物品の量は事前に使用する分を知ってから決めるべきである。TP11期では人数分に加えかなり余裕のある予備分を持っていったため、荷物の多さに困った。そのため、渡航前には実際に道具を使用する予行練習をし、時間配分、使用した物品の数量、追加した方が良い物品や説明事項等を知ることが必要だ。さらに、物品購入の際、可能な限り現地の学生数が確定次第購入する方が費用を抑えることができる。

また、企画内容を決めるときは日本人としての視点だけでなくタイ人の視点も考えるように努め、日本文化を何不自由なく楽しんでもらえるように工夫するとより良い企画になるだろう。

7. 終わりに

企画当日は縁日班だけでなくTPメンバー全体が臨機応変に行動してくれたおかげで、大きなトラブルなく終わることができた。また、現地の先生が積極的に仕切ってください、それによって生徒がしっかり理解してスムーズにブースに来てくれたため、企画が円滑に進行した。

今回の企画では、タイの生徒に日本文化を知ってもらい、楽しんでもらえたことが最大の成功であった。しかし、企画を実施する中で言語の壁は1番の課題だった。企画の準備期間ではタイ語を話せない私たちが、頑張ってタイの生徒に説明してもルールを理解してもらえないのかという不安が大きかった。けれども、企画当日は英語や翻訳機能、ジェスチャーなどを駆使してコミュニケーションをとり、タイの生徒もそれに優しく応えてくれたため、縁日をしっかり楽しんでもらえたと感じた。企画を通して、話す言語が異なろうとも相手に自分の言いたいことを伝えようとする気持ちを持ち、積極的にコミュニケーションをとろうとすることが大切であることを実感した。

スポーツ交流企画

運動からはじめるコミュニケーション

石川麻夢、大木場柊哉、片田江奏花、田中美羽

1. 企画概要

チーム対抗戦で、4つの競技を行い、順位をつける。競技は日本の運動会等で行われる競技でTPメンバーと Bankadwittayakom School の生徒が楽しんで仲を深めてもらう企画である。

2. 企画目標

- (1) TP メンバーと Bankadwittayakom School の生徒に全力で楽しんでもらう。
- (2) 運動を通して、言語の壁をこえて仲良くなってもらう。

3. 事前準備

(1) 企画の決定

TP メンバーから提案された競技の中から最終的に決定した競技が二人三脚、しっぽとり、ドッチビー、でかパンリレーである。選んだ理由として、全てがチーム競技であり、男女問わず楽しむことができる点、リレー形式で競技を行うことでチームワークや連携を高めることができる点が主な理由である。また、競技ごとのルールを説明するためにTPメンバーにデモンストレーションを実施してもらうことに決定した。そのため、一人一人の配置や役割を割り当て、動きを説明することになった。さらにチーム対抗であるため、各チームのチームカラーを決定した。色テープには1枚ずつに番号を割り振り、競技1ゲームごとに番号を読み上げることで、競技の円滑な進行を確保することにした。

(2) 賞品の準備

今回の企画では、順位ごとに賞品を用意することにした。賞品には日本のお菓子を選び、お菓子の詰め合わせの梱包作業を行った。順位に応じてお菓子の量や種類が異なるようにした。

(3) 第二回合宿

ルールやデモンストレーションを確認し、意見を出し合って細かな修正を繰り返した。開会式から閉会式までの流れをTPメンバーに把握してもらうために予行練習を行った。

4. 実施内容

(1) 開会式

- ① 開会宣言
- ② スケジュール説明
- ③ 準備運動（※ラジオ体操）
- ④ 注意事項の説明

※ラジオ体操について

準備運動では日本の運動会を感じてもらうため

に、日本のラジオ体操を使用した。しかし、Bankadwittayakom School の生徒にはラジオ体操の発する言葉が伝わらないと思い、TPメンバーに散らばってもらい、動作を真似て体操してもらった。

スケジュール	
開会式・ラジオ体操	20分
二人三脚	25分
しっぽとり	25分
休憩	10分
ドッチビー	25分
でかパンリレー	25分
閉会式・結果発表	20分

各競技の間に約5分の休憩を設け、熱中症対策や水分補給に十分配慮した。当初は2時間を計画していたが、合計で約2時間30分の時間を要した。これは、当日の時間に余裕があったためである。その結果、当初より余裕をもって、進行することになった。

(2) 二人三脚

【概要】

2人1組で肩を組み両者の片足にバンドを括り付けて協力して走るリレーである。1組につき半周のリレー形式で行った。4チーム一斉にスタートし、順位に得点を付けた。※1位50点、2位40点、3位20点、4位10点

時間配分：説明・デモンストレーション5分 競技：20分 合計25分



(3) しっぽとり

【概要】

相手チームからしっぽを取り、また自分のしっぽを取られないように逃げるゲームである。スズランテープでチームカラーのしっぽを作成し、7～8人で編成する。相手チームにしっぽを取られた選手はコート外に出る。制限時間内に多く生き残ったチームの勝利とした。総当たり戦として、2面コートを作成し、計6試合実施した。※勝利チームに30点、敗者チームに10点

時間配分：説明・デモンストレーション5分 競技：20分 合計25分



	Aコート	Bコート
1試合目	赤 v s 青	黄 v s 緑
2試合目	青 v s 黄	赤 v s 緑
3試合目	黄 v s 赤	緑 v s 青

(4) 休憩

2つの競技を終えて、一度長めの休憩を設けた。その間にTPメンバーに塩分補給用のあめを配ってもらうことにした。休憩を取りながらも、楽しそうに交流していて、良い時間を過ごせていた。



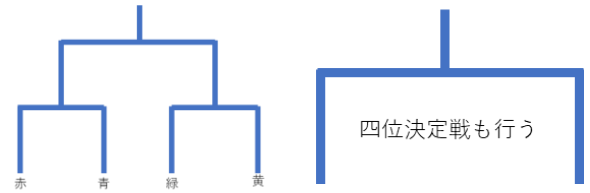
(5) ドッチビー

【概要】

この競技はフリスビーで行うドッチボールのことで、チーム対抗戦で実施した。相手チームのフリスビーに当たった場合、当たった選手は外野に移動する。また、外野の選手がフリスビーで相手チームを当てると、内野に戻ることができるという基本的なルールに則り、最終的に内野に残っている人数の多いチームの勝利とした。この競技はトーナメント方式を取り、順位ごとに得点を付けた。※1位50点、2位40点、3位20点、4位10点

時間配分：説明・デモンストレーション 5 分 競技 20 分 合計 25 分

外野は TP メンバーの 1 名を固定とし、外野から当てた子を内野に戻すことや遠くに行ったフリスビーを取りに行くことなど、競技を楽しみつつサポートをしてもらった。また、内野に残った人数が同じになるケースが発生した。しかし、トーナメント方式をとっているためじゃんけんで勝敗を付けることもあった。



(6) でかパンリレー

【概要】

2 人 1 組で大きなパンツをはいてもらい、チーム対抗でトラックを走ってもらうリレー競技である。当初はトラックを 4 分割して、4 つのスタート位置を予定していたが、動きが複雑であったため半周でバトンタッチする形式に変更した。この競技でも、順位ごとに得点を付けた。※1 位 50 点、2 位 40 点、3 位 20 点、4 位 10 点



時間配分：説明・デモンストレーション 7 分 競技：18 分 合計 25 分

(7) 閉会式

①結果発表

- 1 位 赤チーム
- 2 位 青チーム
- 3 位 緑チーム
- 4 位 黄チーム



②賞品贈呈

ハイチュウ、ばかうけ、蒲焼さん太郎、グリコ等のお菓子を賞品として準備した。順位ごとに賞品の内容を変えて、お菓子の詰め合わせを贈呈した。

5. 振り返り

(1) 良かった点

合宿中に試行錯誤を繰り返して練習してきたためスムーズに企画を進めることができた。また、二人三脚で走順のトラブルが発生したときも TP メンバー全員で臨機応変に対応することができ、競技に取り組むことができた。特に大きなけがや体調不良者が出なかったため、休憩の時間が適切であったと感じる。最後に全体写真だけでなくチームでの写真も撮っていて、最初よりも仲良くなれていた。

(2) 改善点

二人三脚とでかパンリレーの走順をわかりやすくするべきだった。当初は番号を割り振った色テープを活用する予定だったが、上手く説明が伝わらず混乱を生じさせてしまった。また、スカートの生徒も数人いて、競技に参加しづらいという問題も発生した。これらのことから、事前に競技内容とルールを学校側に伝えておく必要があったと感じた。そうすることで上記のような混乱や問題を減らすことができると考える。

6. 後輩へのアドバイス

タイの農村の生徒には英語が通じる学生や通じない学生がいるため、基本的に説明は EDF の方に通訳してもらった方がよい。そのため、ある程度文章を事前に準備して EDF の方に送るとよりスムーズに進むと感じた。また、BGM のプレイリストも事前に用意するべきである。企画に合った曲を用意することで盛り上がりにも反映すると感じた。

7. 終わりに

今回の企画は Bankadwittayakom School の先生や生徒、EDF さんの協力のもと成功させることができた。加えて、TP メンバーにも運営してもらうことで円滑に企画を進めることができた。これにより企画の運営や準備を通じて、自覚と責任をもって行動する力が身についた。そして、競技中の熱い声援からは、参加者が心から競技を楽しんでいることが伝わり、大きなエネルギーを感じた。

また、TP メンバーに対して聞き取り調査を実施した。多くの意見として言語の壁を感じたとあげられていたが、競技は言語の壁を越え、参加者同士がお互いに楽しむことができたと感じた。特に印象的だった場面がある。ドッチビーの際に各チームが円陣を組んで、チームワークを発揮していたことだ。これはチームプレイの中で生まれた信頼と仲間意識が垣間見えた瞬間だった。このことから、この企画の目標である、全力で楽しんでもらうことと言語の壁を越えて仲良くなってもらうことを達成できた。

サティカセ MP 習字企画

Let's write Japanese calligraphy !

西口真菜美、酒井優衣、鈴木和

1. 企画概要

カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の生徒に習字の体験をしてもらう。

2. 企画目的

書道はもともと中国で発達し、飛鳥時代に日本に伝わった。奈良時代になると、万葉仮名が誕生し、日本独自の書体が生まれ、日本流の書道の体系が構築されていった。このような伝統的な書道文化を、タイの高校生に伝え、体験してもらうことを第一の目的としている。また、TP メンバーが言葉の壁を越えて、自発的にコミュニケーションをする姿勢を身に着けることを第二の目的としている。

3. 事前準備

時期	実施内容
11 月	企画内容、書いてもらう文字の候補、班の決定。
12 月 4 日	習字班で予行練習
12 月 24 日	企画物品のリスト化終了。
1 月	司会原稿、漢字の説明のスライドを作成。マニュアルをタイ語に翻訳してもらう。見本の文字とマニュアルの印刷。
第 2 回合宿	時間を測りながら、本番と同じように全体でシミュレーション。
2 月	すべての物品の購入終了。最終確認。
渡航中	TP メンバーから空のペットボトルを集める。

上記のような流れで本番に向けて準備を整えた。早い段階から企画を具体化させ、役割分担をして準備を始めたので、予行練習を 2 回するほど余裕をもって進めることができた。しかし、直前に人数の変更や企画をする部屋を 2 つに分けて行わなければいけないことなど、イレギュラーな出来事への対応に苦戦した。企画で使用する Word の原稿、PPT のスライドなどはすべて USB に入れ、タイに 2 つ持参した。

予行練習の様子



4. 実施内容

- ・日時…2024 年 2 月 20 日
- ・企画時間…11 時 20 分～12 時 10 分（50 分間）
- ・場所…高校 2 年生の教室（2 教室）
- ・人数…サティカセ MP の高校 2 年生 29 人、TP メンバー 13 人
- ・手順
 - ★事前に新聞紙を敷き、材料を机に並べておく。

- ①チームに分かれて、座ってもらう。※1
- ②全体説明（習字班の3名が、書道の歴史の説明と企画を行う上での注意点を伝える。）
- ③紙エプロンの着用。
- ④各自好きな字を選んでもらう。※2
- ⑤墨汁を紙コップに入れる。
- ⑥半紙で選んだ字を練習。（1人2枚）
- ⑦タイの生徒1人に対して、TPメンバーが1人つきながら、半紙に書く。（本番）
- ⑧仕上げに選んだシールを色紙にはる。
- ⑨乾くまで、ごみ捨てや汚れた机などを雑巾で拭くなど片付けを行う。
- ⑩終わりの挨拶。（本企画を担当する3名が、英語で感想を伝える。）

※1

一つの部屋で2班に分けた。（計4班）

人数構成は、一班あたりTPメンバー3～4人、タイ人7～8人にした。

A 柊哉、茉桜、まむ	+	タイの生徒7人
B 和、奏花、優衣	+	タイの生徒7人
C 千鶴、真菜美、美羽、弥憂	+	タイの生徒8人
D 夏実、美南、薫奈	+	タイの生徒7人

※2

文字の候補は以下の通りである。日本や和歌山大学に関連する言葉を選んだ。

- (1) 和
- (2) 桜
- (3) 侍
- (4) 寿司
- (5) ありがとう

・ 物品

○日本国内で購入したもの

DAISO	個数	Amazon	個数
筆	30本	紙エプロン	50枚
墨汁	5本	USB	2個
色紙	32枚		
紙コップ	40個		
半紙	80枚		
ウェットティッシュ	4袋		
雑巾	4枚		
ポケットティッシュ	8個		
シール	3枚(3種)		
養生テープ	1個		
ごみ袋	5枚		

○現地で揃えたもの

サティカセ MP が揃えた物	個数	TP11 期が揃えた物	個数
プロジェクター	2個	新聞紙	4日分
全員分のイス	35脚	空ペットボトル	8本
全員分の机	35卓	マニュアル	各5枚
文鎮	30個	字の見本	各5枚
		データを入れた USB	2個

活動の様子は次の通りである。



5. 振り返り

【TP11 期からの感想】

良かった点	・タイの生徒が企画を楽しんでくれていた。 ・沢山コミュニケーションがとれた。 ・漢字のレベルが丁度よかった。 ・墨汁などで服が汚れるトラブルが、発生しなかった。
反省点	・片付けの時間が十分に取れなかった。 ・サティカセ MP 側からの文鎮が軽すぎて、書きにくそうな子がいた。 ・インスタなどを交換できる時間が少なかった。 ・完成したものをを入れる袋があればよかった。
改善点	・見本に書き順の数字を振ったり、書き始めを矢印で明確にしたりすればよかった。 ・パワポをもう少し活用して、漢字の意味をさらに分かりやすく伝えられたらよかった。

【まとめ】

サティカセ MP の生徒の中には、習字を経験したことがあるという生徒も多かった。そのため、どちらの部屋も大きなトラブルはなく、スムーズに企画の進行ができた。一番人気だった文字は“桜”で、二番目は富士山の“富”だった。“侍”が人気だと予想していたが、侍のイラストを見せて説明しないと、侍という言葉の意味が通じなかった。

6. 後輩へのアドバイス

習字企画は物品を人数分揃える必要がある。そのため、できるだけ購入する物品を最小限にすることをお勧めする。今回は他の交流企画（縁日）で、習字ブースがあったため、共通で物品を購入し、予算と物品数を抑え、余った物品は高校に寄付した。渡航後半になるにつれて、お土産などでスーツケースがいっぱいになるので、物品についてはよく考え、工夫してほしい。

また、TP メンバー内で事前にリハーサルをしておくことを強くお勧めする。本番中に想定外のことが起きても、メンバー全員が時間配分や企画の趣旨を把握していれば、臨機応変な対応がしやすくなる。

7. 終わりに

当日は、サティカセの先生方が事前準備（新聞紙を敷く等）を手伝ってくださった。そのため、私たちは時間的にも精神的にも余裕をもって本番に臨み、企画を成功させることができた。渡航前に、本番は想定外のトラブルが起こるため、気を付けておくようにと伝えられていたが、案外大きなトラブルはなかった。何が起こ

っても、笑顔でいることと、一緒に楽しい時間を過ごそうというマインドを心掛ければ、それは相手に伝わり、企画の成功にもつながる。

また、企画時間は短かったが、この企画で作った作品が私たちとの交流の証となってくれと嬉しい。交流企画の1つの特徴として、タイの高校生と直接関わり、親睦を深めることができるということがある。そのため、一緒に何かを制作する企画にすれば、会話も弾み、形として残るため、思い出に残りやすい。

更に、企画後同じ教室だった大半の高校生とインスタグラムを交換できたことが印象に残っている。一期一会を大切に、自分たちから積極的にコミュニケーションをとることで新たなつながりを得ることができることを実感した時間だった。

ไม่เป็นไร

【マイペンライ】

意味：大丈夫

心の不安がなくなる魔法の言葉！マイペンライの精神でなんでもチャレンジできた！！



答えは52ページへ！

パフォーマンス

音楽はみんなの心をつなぐ

西田千鶴、猿田夏実

1. 概要

日本で流行しているヒットソングを歌とダンスで披露する。使用曲は SMAP の「世界に一つだけの花」、ももいろクローバーZ の「行くぜ！怪盗少女」、YOASOBI の「アイドル」の3曲である。初めて聴いた人でも盛り上がる可以选择する曲を選択し、「アイドル」では日本文化であるオタ芸を取り入れた。

2. 目的

タイの学生に日本の音楽文化を楽しみながら知ってもらう。

3. 事前準備

時期	実施内容
11月上旬	TP11 期の投票で曲を決定
11月下旬～12月上旬	「行くぜ！怪盗少女」の振付動画を TP メンバーが随時振付を確認できるように LINE のノートで共有
12月下旬	「世界に一つだけの花」の振付共有、練習
1月～	音源作成、パフォーマンス班が踊っている「アイドル」の動画を撮影し、TP11 メンバーが随時振付を確認できるように LINE のノートで共有 授業後や空きコマ、昼休み等の時間で日程調整を行い、ダンス練習
2回目の合宿～本番	全員揃って練習、フォーメーションの確認

上記のような流れで本番に向けて準備を行った。パフォーマンス班が振付を教え、ある程度踊れるようになったら動画で振り返って自主練習してもらえるように限られた時間を有効活用した。全員が振付を覚え次第、フォーメーションを作ってダンスを完成させた。練習は、昼休みや空きコマ、授業後に経済学部棟の空き教室、シンボルゾーン等で行った。パフォーマンスで使用する音源は編集し、USB に入れてタイに持参した。本番では、TA さんに音源を流してもらうようお願いした。

4. 実施内容

(1) サティカセ大学付属高校マルチリンガル・プログラム校

最初に「世界に一つだけの花」の曲紹介を行ってから歌った。その後、「行くぜ！怪盗少女」の曲紹介を行い、踊って会場をさらに盛り上げた。最後に「アイドル」の曲紹介を行い、オタ芸を披露した。



(2) Bankadwittayakom School

最初に「世界に一つだけの花」の曲紹介を行ってから歌った。その後、2曲連続して曲紹介を行い、「行くぜ！怪盗少女」と「アイドル」を2曲続けて踊った。理解しやすいように1曲ずつ紹介していたが、サティカセで曲紹介をダンスの間に挟むことで盛り上がりが薄れてしまったという反省を生かして2曲連続で曲紹介を行った。



どちらの学校でもオタクをイメージして、TPメンバーは頭にバンダナを巻き付け、タイプロTシャツ、ジーンズで服装を揃え、「アイドル」を踊る際には、伊達メガネをかけてサイリウムを光らせて踊った。時間は15～20分程度。

5. 振り返り

(1) 世界に一つだけの花

- ・肩を組んで歌い、生徒たちもリズムに合わせながら見てくれていたのが良かった。
- ・サビの部分で手のふりをつけるのが良かった。(タイの子たちが真似してくれた)
- ・後ろに歌詞のタイ語訳をしたスライドがあればより良かった。

(2) 行くぜ！怪盗少女

- ・日本の王道アイドルグループの曲を使用したことで、日本のアイドル文化を知ってもらえた。
- ・ポップな曲調なので踊っているほうも見ているほうも楽しんでもらえたと思う。

(3) アイドル

- ・タイでも知名度が高く口ずさみながら楽しんでくれていた。
- ・とても盛り上がったのでオタ芸を取り入れてよかった。
- ・サイリウムを利用したことで綺麗な演出が出来上がり盛り上がった。
- ・ペンライトの左右の色が違っていたり、ペンライトを置いておく位置が曖昧だったりして準備に時間がかかってしまった。

パフォーマンス後のタイの学生の反応

- ・バディの子から「アイドルを知っていた」や「ダンス上手だね」と褒めてもらえた。
- ・サイリウムを欲しがっていたので、プレゼントしたら喜んでくれた。

事前練習～本番

良かった点	低速にした動画や反転してある動画をノートにまとめていつでも見られるようにした。 昼休みや空コマの時間を使ってフリを教えた。 少人数に分けて教えたことでフリが覚えやすく、全員揃ったときに踊りやすかった。 オタク感を出そうと必死になっているのが面白かった。 踊るスペースが狭かったが、タイの生徒との距離が近く相手の表情を見ながら踊れた。
改善点	スムーズに練習するためにダンス練習場所を事前に決めておく。 事前に当日の服装やバンダナの巻き方の確認をする。 毎週踊る時間を設ける。(授業後に1回通すなど) 週や日ごとにここまで覚えるなどの目標をもって練習する。 MCが曲紹介をしているときに騒がしくなってしまうことがあった。

6. パフォーマンス企画を終えて

「世界に一つだけの花」と「行くぜ！怪盗少女」に関しては振付のお手本があったが、「アイドル」のオタ芸はオリジナルの振付を考えたので大変だった。振付が完成したら、すぐに動画を撮ってみんなに共有し、振付を教えた。それぞれ授業やバイト、部活などで日程を調整することが難しかったが、上手く時間を合わせて一人ひとりに寄り添いながら練習をした。この企画の準備、運営を通じて限られた時間の中で計画を立てて実行したり、進捗状況によって変更したりするなど先を見越して行動する力が身についた。パフォーマンス当日は、TPメンバーとタイの生徒が一緒になって盛り上がり、日本文化を楽しみながら知ってもらおうというこの企画の目的が達成されたように思う。準備期間も含め多くの時間を要したこの企画だからこそより達成感が感じられた。パフォーマンスを通して、言語は違っても、音楽で心を通わせることが可能であることに気付かされた。渡航の最終交流企画がパフォーマンスで、農村の学校で「世界に一つだけの花」を歌っているときに、事前準備から渡航中の頑張ってきたことや思い出が一気に蘇り、気付いたら涙が溢れていた。私たちの人生において忘れられない景色となった。

7. 後輩へのアドバイス

(1) パフォーマンス班へのアドバイス

みんながいつでも振付を確認して練習や復習ができるように動画は反転した状態のもので、通常の数倍と0.5倍速バージョンをLINEに共有しておくが良い。曲決め、振付、練習のスケジュール調整は早めに行うことで、練習時間に余裕ができ、パフォーマンスの完成度が上がる。振付はダンス未経験者も踊りやすいようなるべく簡単なもので、フォーメーションは増やしすぎると練習時間が取れなかったり、個人練習するのが難しくなったりするので少なめをおすすめする。練習はTPメンバーが参加できる空コマや昼休みの時間のアンケートを取り、練習に参加できない人がいないようになるべく多く行ったほうが良い。フォーメーションの確認は全員が揃わないと難しいので、授業後に行うとよい。本番は、事前にステージの大きさを確認し、必要に応じてフォーメーションを変更する。音源は、1つの音源にまとめると、スムーズに流せる。曲によって準備物がある場合は、置いておく場所と用意するタイミングの確認を全員で行う。

(2) 全員へのアドバイス

TP11期は「世界に一つだけの花」を歌ったが、日本の曲を知らない子も楽しめるようにタイ語を覚えて歌ってもよかった。今回の反省から、もし日本語の曲を歌うなら、タイで流行っている日本の曲を事前にタイの学校の先生にリサーチすることをおすすめする。タイでも、日本のアニメの知名度が高かったのも、日本のアニメで使われている曲を選ぶと盛り上がると思った。多少のアクシデントがあっても、楽しむ気持ちを忘れないで笑顔で踊ることを大切にしてほしい。ダンス練習には積極的に参加し、わからない部分があればパフォーマンス班に伝え、練習を重ねることで自信をもって本番楽しくパフォーマンスすることができる。

第三章

その他企画

ワット・プラタート・ドイステーブ

フリーマーケット in バンコク

片田江奏花、猿田夏実、柳瀬薫奈、森田茉桜

1. 企画概要

日本で収集した未使用、もしくは、不要になった商品をバンコク市内のフリーマーケットで販売する。利益は、EDF に寄付し、貧困家庭の子どもたちの教育支援に活用される。

2. 企画目的

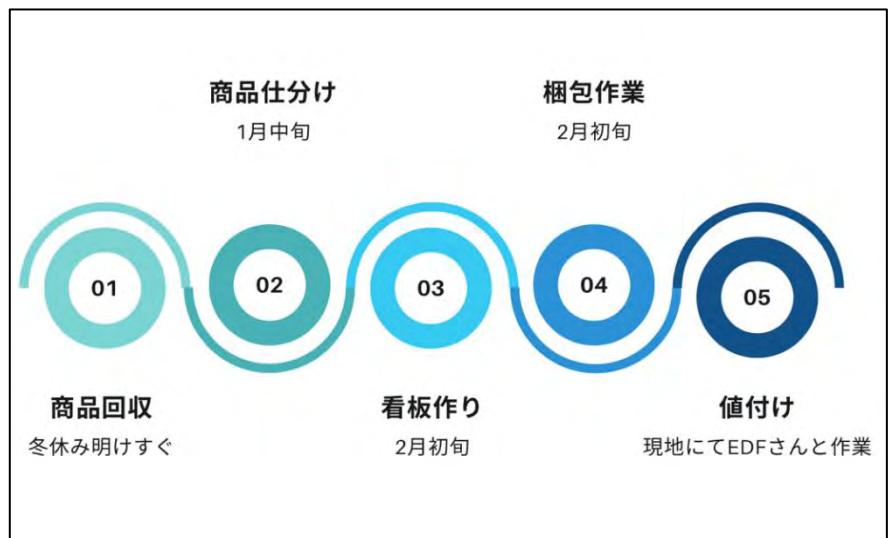
未使用、または不要になった物品を販売し SDGs に貢献すると同時に、マーケットでの販売中に住民とのコミュニケーションを通して、日本文化を広める。

3. 事前準備

【事前準備工程】

(1) 商品収集

TP メンバーに加え、各自が他団体の学生にも声掛けを行った。過去の報告書を参考にスキンケア商品、衣類、キャラクターグッズ、アクセサリ、文房具など渡航時の輸送も考慮し、小さいサイズ且つ新品・未使用の商品を中心に収集した。受け取りができない商品の例として、状態が悪いもの、食べ物、液体物などが挙げられた。TP メンバーは原則 5 個以上を寄付すること、とした。



(2) 商品仕分け

数日間に渡り、集めた商品の状態をもとに売れるのか売れないのかを判断していく。同時に、商品の種類ごとに分けていった。集まったのは、主に文房具、キャラクターグッズ、衣類、スキンケア・メイク用品、アクセサリ、その他に分けられた。小物類が多く、保管に困ったが、フリマ班以外の TP メンバーの協力のお陰で渡航までの期間は保管することができた。

(3) 看板作り

商品仕分けの合間を縫って、当日のフリーマーケットにて使用する看板を作る作業を行なった。材料は、集めたダンボール、マッキー、色画用紙等を使用した。現地の人々がパッと目を引くデザインにするべく赤色を選んだ。また、英語がわからない方のためにもタイ語に翻訳をして文字を書いた。レイアウトでは、タイや日本の国旗を描くなどして工夫も加えた。



(4) 梱包作業

小物が多かったので商品がばらつかないように、購入した透明袋に一つ一つ梱包する作業を行なった。主に、アクセサリを包装した。イヤリングなどペアになっているものは、バラバラになってしまう、ネックレスは絡まりを防ぐという意味もある。また、販売時の見た目が良くなるといった理由もある。同時にそれぞれの商品に値付けシールを貼った。値付け時の作業の負担を減らすという目的のためである。販売時に顧客側が一目で値段を認知できるといった効果も目的とした。

(5) 値付け

集めた商品を TP メンバーで振り分け、各自保管をして渡航した。渡航後、フリーマーケット当日の夕方頃に、現地にて EDF さんと値付け作業を行なった。

【実際に集めた商品数】

種類	個数
文房具	43 個
スキンケア商品	11 個
衣類	18 個
キャラクターグッズ	38 個
アクセサリ	55 個
その他	21 個

現地での EDF スタッフとの値付け作業にて、変更されたものもあったが、TP メンバー、TA に加え、他団体の学生の方々の協力の下、合計約 186 個の商品を集めることができた。

4. 実施内容

【現地での動き】

下記の 3 つのグループに分け、30 分ずつ交代で回した。各班の当番が 1 周したら、残った時間は全員で販売を行った。

A：薫奈、麻夢、優衣、弥憂、柊哉

B：夏実、奏花、美羽、和

C：茉桜、真菜美、美南、千鶴

【各グループ内での役割分担、役割の動き】



- 売り込み担当（1 又は 2 人）
看板や商品を持ちながら通行人に売り込む
- レジ担当（1 人）
会計、お金の管理
- 接客（1 又は 2 人）
お客さんからの質問に答える。コミュニケーションを積極的にとる



役割に当たっている人は法被を着て営業を行うことを原則ルールとした。これは、企画目的の中に含まれる『日本文化を広める』きっかけになると考えたからである。

5. 振り返り

全体売り上げ	日本円
4,274 パーツ	約 17,000 円

【反省点】

今回のフリーマーケットにおける反省点は主に 3 つある。1 つ目は、売上である。全体の売り上げは渡航前の目標としていた 20,000 円に到達しなかった。それ以前に、売り上げの大半は関係者の方々によるものだったという点である。売れ残ってしまった商品のほとんどは、EDF の方々や引率教員が購入してくださった。寄付するという目的でありながらも、関係者の方々による協力のもと得られた利益であるので、達成には程遠い結果となってしまった。

2 つ目として、当日の運営が円滑に行えていなかった点である。事前に決めていたグループ同士又はメンバー同士のコミュニケーションが足りていなかったと考える。また、ローテーションの時間が短かった為、各自が十分に楽しみながら食事をする時間がなかったという意見があった。最後は、メンバーの大半が協力して運営を行なった。

3 つ目は、商品の陳列や装飾である。今回の商品は小物中心であったため、現地での商品陳列の際に散乱しているという印象があった。限られた机の大きさではあったが、見やすく陳列できる工夫が必要であった。また、渡航前に作成した看板だが、担当者がホテルに忘れたことも一つの欠点である。

6. 後輩へのアドバイス

夜のフリーマーケットでの商品の陳列には少し工夫が必要。顧客側が見やすいと思えるアレンジが良い。TP11 期では、手作り商品の販売は行わなかったが、ハンドメイドの商品の方が効果的なものかもしれない。出品時に着ていた法被は好評であった。売り物にもなったので、イベント感が増す装飾や衣装があるとさらに盛り上がるのではないだろうか。また、渡航前に貼ったシールやタグは、値付けの際に非常に役に立った。商品の受け渡し袋は、特に必要ない。



7. 終わりに

TP11 期のフリーマーケットでは、評価点と課題点の双方があった。まず、評価すべき点は、企画の目的である「未使用、不要になった物品を販売し SDGs に貢献すると同時に、マーケットでの販売中に現地民とのコミュニケーションを通して、日本文化を広める。」を達成できたことである。TP メンバーは、販売中に積極的に現地民とのコミュニケーションを取っていた。普段とは違う環境で現地民と言語も壁を超えたコミュニケーションを取るきっかけの場所になったのではないだろうか。現地民だけでなく、タイに訪れていた欧米人や他国の訪問客らと会話をする様子が見られた。顧客の中には、日本の商品に興味を持っていた人もおり、タイ以外の国から来た顧客との会話やコミュニケーションを通じ、日本文化を広める機会になったと言える。一方で、課題点として挙げられたのは、フリーマーケットの本来の意味である「寄付」の面ではあまり貢献することができなかった。売り上げを促進するための工夫と準備が不十分であったと考える。

なんだこれ?! クイズ!

A. ロティサイマイ



**わたあめをクレープ生地で包んだ、
アユタヤ地方のお菓子。しっかりした
食感のわたあめが甘くておいしい♡**

日本和歌山紹介

田中美羽、酒井優衣、西口真菜美、村井美南

1. 企画概要

日本の四季（主に和歌山県の四季）と和歌山大学についてプレゼンテーション（以下プレゼン）とそのプレゼンに基づいた〇×クイズをカセサート大学付属高校マルチリンガルプログラム校（以下サティカセ MP）と Bankadwittayakom School で行う。

2. 企画目的

サティカセ MP や Bankadwittayakom School の生徒たちに日本や和歌山県、和歌山大学について興味を持ってもらう。また、〇×クイズを行い、生徒たちに楽しんでもらいながら、日本や和歌山県について知ってもらう。

3. 事前準備

期間	実施内容
11 月	日本・和歌山の何を紹介するかを決める。
12 月	企画書完成
12・1 月	季節を分担し、それぞれプレゼン内容を考える。
1 月	和歌山紹介と〇×クイズ、和歌山大学の PPT を作成する。
第 2 回合宿	TP メンバーにプレゼンを見てもらい、アドバイスをもらう。
2 月 5 日	プレゼンを修正し、再度 TP メンバーに確認してもらう。
2 月 8 日	プレゼン完成

上記のような流れで本番に向けて準備を行った。第 2 回合宿の際に、沢山の改善点が挙げられたので、急いで修正しプレゼンを完成させた。プレゼンの役割分担に関しては、以下の通りである。【春：優衣、夏：真菜美、秋：美南、冬：美羽】

4. 実践内容

PPT は簡単な英単語と写真を用いて作成した。サティカセ MP では、プレゼンは英語で行った。Bankadwittayakom School では日本語で行い、その後タイ語に通訳してもらった。

【タイムスケジュール】



(1) プレゼン内容

①四季紹介

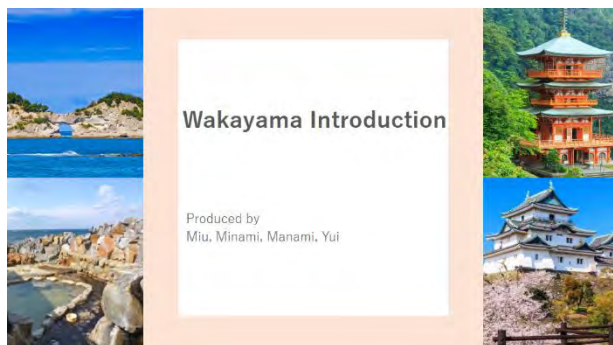
日本に四季という文化があることをタイの生徒たちに理解してもらった。

②和歌山県紹介

まず、和歌山県の位置を示した。そして、日本の四季を和歌山県バージョンで紹介した。和歌山県の観光地や特産品などを写真と簡単な英単語を用いることで分かりやすく紹介した。以下のようなことを紹介した。【春：和歌山城の桜、夏：海・祭り、秋：高野山の紅葉、冬：みかん・温泉】

③和歌山大学紹介

和歌山大学の学部や部活動・サークルなどの動画を流して紹介した。

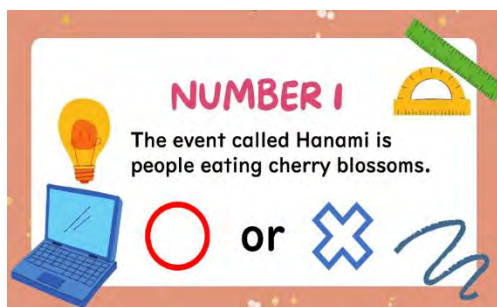


(2) ○×クイズ

もっと和歌山県の理解度を深めるために、プレゼンの内容を元に○×クイズを実施した。質問をした後、タイの生徒に○か×をジェスチャーで表してもらった。質問は全部で4問出した。参加してくれた生徒に景品として和歌山県のみかんを使用した飴をプレゼントした。

【○×クイズの内容】

- ① お花見という行事は、人々が桜の花を食べることである。○か×か？
- ② 2023年のヨットのインターハイは、和歌山県で開催された。○か×か？
- ③ 高野山は世界遺産に登録されている。○か×か？
- ④ 和歌山県はみかんの生産量が全国第1位である。○か×か？



←ジェスチャーをしている様子

5. 振り返り

発表は、Bankadwittayakom School でもサティカセ MP でも盛り上がり、日本や和歌山県、和歌山大学に関心を持ってもらえた。

(1) Bankadwittayakom School

Bankadwittayakom School では、日本語をタイ語に通訳してもらうため、わかりやすく端的な文章を使用した方が良かった。通訳さんがタイ語に変換するとき、どう表現すればいいのか迷っていたところもあったので、簡単な日本語を使用すべきであった。

(2) サティカセ MP

サティカセ MP では、英語で発表したのが伝わっているのか不安だった。用意した文章をただ読んでいただけだったので、もっと抑揚をつけたり体で表現したりした方が生徒にしっかり伝わったのではないかと考える。また、日本の四季はもう知っている内容だったのか、生徒たちはあまり興味を示していないように見えた。もっと新しい知識を導入すべきであった。

(3) その他

〇×クイズは、生徒のみんな積極的に腕を使ってジェスチャーをしてくれた。シンキングタイムを入れることで、考える時間ができ、円滑に実施することができた。最後に〇×クイズの景品を渡すと、生徒たちは喜んでくれた。和歌山大学の紹介に関しては、動画を流しただけなので、ところどころで説明をしながら紹介するなど、もっと工夫が必要であった。

6. 後輩へのアドバイス

PPT や動画制作は準備することがたくさんあるので、早く取り掛かるようにする。プレゼンは1人でやるのではなく、分担して作業するべきである。そして、プレゼンをわかりやすく伝えるために、抑揚をつけて発表したり、動画を用いたりした方が良い。PPT では写真だけでなく、簡単なキーワードを入れるなど工夫をする必要がある。また、タイではアニメがとても人気なので、PPT にアニメを取り入れても良いと感じた。

7. 終わりに

この企画を通して、準備の取り掛かりが遅く、完成させるのにとても時間がかかったのが反省点である。PPT を作成するのにとても時間がかかり、みんなで集まって練習する時間があまり取れなかった。発表の際、スライドの切り替えに手間取った。事前に誰がスライド操作の担当者を決めておくべきだった。プレゼンが成功できたのは、TP メンバーや通訳の方、Bankadwittayakom School やサティカセ MP の先生方のおかげであり、心から感謝する。今回のプレゼンを通して、タイの生徒に日本や和歌山県、和歌山大学に関心を持ってもらい、実際に訪れてくれる人が1人でも多くなることを期待している。

ホスピタリティ

石川麻夢、大木場柊哉、和多田弥憂

1. 企画概要

企画の待ち時間や不意にできた空き時間に、タイの生徒と楽しく遊べるようなゲームを考え、時間を有効活用する。また、タイの生徒に感謝の気持ちを込めて、日本らしさのあるお礼の品を用意しプレゼントする。ゲームは①じゃんけん列車 ②じゃんけん大会 ③どんじゃんけんポン ④気配切り の4つを企画し、手土産は①おやつカルパス ②キャラクターシール ③水引 の3つを用意した。

2. 企画目的

空いた時間をタイの生徒と交流する時間にするすることで、少しでも長く楽しい時間を共有し、多くの思い出を作る。おもてなしをしてくれるタイの生徒に対して感謝の気持ちを伝えるために、自分たちなりに手土産を用意する。ゲームも手土産も、日本人の私達だからこそ思いつくもの、渡せるものにして、日本らしさを感じてもらえるようにする。

3. 事前準備

手土産用に注文したものが全て揃ってからホスピタリティ班が全員集合できた2月8日に、水引の作成や袋詰め作業をすべて行った。キャラクターシールが何枚も余ってしまったが、ゲームの景品や何かの機会にプレゼントできるかもしれないと思い、余った分もタイに持っていけるようにした。

企画したゲームのうち、TP11期の中で知らない人が多かった、どんじゃんけんポンを第2回TP合宿で実施し、ルールの共有をした。

準備した物

おやつカルパス・チーズおやつ	カルパス50個 チーズ48本 計98本
水引	春色10色×10筋 計100筋入
養生テープ(ゲーム用)	50mm×15m、ホワイト
クリアシールバック	計135枚
ドラえもんシールステッカー	50枚セット
ポケットモンスターステッカー	100枚セット

4. 実施内容

日程	内容
2/21 Satit Kaset MP School	学校お別れ式でそれぞれのバディに渡した。式の前、控室で待機しているときに、ホスピタリティ班が全員に手土産を配った。
2/22 Bankadwittayakom School	昼食の準備時間に、気配切りを行った。対戦する組み合わせを変えて、3回行った。
2/24 Bankadwittayakom School	お別れ会でそれぞれのバディに渡した。前日の夕食会の前、教室で待機しているときに、ホスピタリティ班が事前に手土産を全員に配った。



5. 振り返り

	良かった点	反省点
渡航前	4つのゲームを空き時間の長さや状況に合わせて用意しておいたことで、いつでも実施できるような準備ができた。 - 不安なゲームを合宿でシミュレーションできたので、楽しみながらルールや流れを把握できた。 - ホスピタリティ班全員で協力して手土産の作成ができた。	- 各ゲームのしっかりとした説明文を考えていなかったため、当日にスムーズで分かりやすい説明をする準備ができていなかった。 - 手土産を作成するのが渡航1週間前とギリギリになってしまい、計画的な作成ができなかった。 - 袋詰め中にカルパスの数が足りないことに気づき、急遽スポーツ班の賞品で余ったお菓子を使わせてもらった。
渡航中	- 昼食準備にかかる時間が分からなかったため、時間の長さに対応しやすい気配切りをすることの決定、道具の準備をすぐにすることが出来た。 - ゲーム参加者はもちろん、見ている人も楽しんでくれた。	- もっと分かりやすくスムーズな説明ができたと思う。 - いくつかゲームを用意していたけどタイミングがうまく掴めず、スケジュール等をよく確認しておけばよかった。
手土産	- 日本のキャラクターのシールがとても喜んでくれた。 - 食べ物とモノをどちらも用意していたのが良かった。	- 余ったキャラクターシールやお菓子を有効活用できなかったため、ゲームの景品にするなどして渡せたらよかった。 - 用意はしたものの、やはりタイの生徒や学校から頂く方が多かった。

6. おわりに

「空き時間をタイの学生と楽しく交流できる時間にする」という目的のもとゲームを企画し実施したが、結果として場も盛り上がり笑顔も生まれ、タイの生徒と TP メンバーで楽しい時間を共有できたので、この目的は達成したと感じている。用意したゲームのうち 1 つしか実施しなかったのも、他のゲームもしてみたかったが、空き時間を見つけるアンテナを常に張っておかないとなかなかタイミングが掴めなかったと反省している。グループでの活動中に空き時間ができた時用に、各グループで楽しめるミニゲームを用意しておいてもよかった。

手土産は水引を手作りしたり、タイでも人気の日本のアニメキャラクターのシールを選んだり、少しでもタイの生徒に喜んでもらえるようにホスピタリティ班なりに工夫できた。手土産を通して TP11 期の感謝の気持ちや、日本らしさが少しでも伝わっていたら嬉しい。

第四章

現地学校との交流



英語ディスカッション

大木場柊哉、猿田夏実、鈴木和、森田茉桜

1. 概要

カセサート大学付属高校マルチリンガル・プログラム校（以下サティカセ MP）の学生と TP11 期が各教室で事前に準備したテーマで英語のディスカッションを行った。

2. 目的

テーマごとにサティカセ MP の学生と英語で話し合い、価値観や考え方の違いを体感し、また英語能力の向上にもつなげることを目的とする。

3. 事前準備

- (1) 4 つのテーマを決める。1 つのテーマに対し、2～3 人のメンバーが担当する。
- (2) テーマに関する意見をまとめ、PPT を作成する。
- (3) サティカセ MP の学生と連絡を取り、事前に情報共有する。

テーマ一覧

1	If you are going on a trip, should you go to a city or a rural area? (旅行するなら都会か田舎か?)
2	If you were to do outside, would you choose in the sea or in the mountain? (遊ぶなら海か山か?)
3	If you had a time machine, would you rather go to the past or the future? (タイムマシンで行くなら過去か未来か?)
4	Is it better to study on paper or electronic devices? (勉強するなら紙か電子機器か?)

4. 実施内容

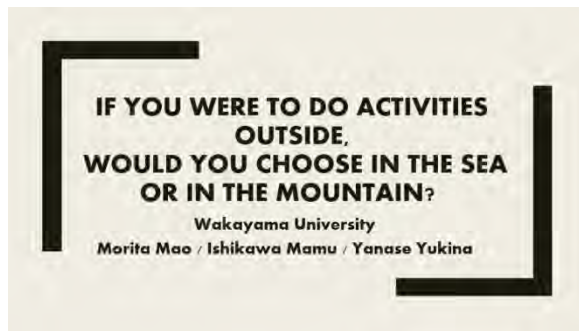
テーマごとに異なる教室でディスカッションが進んだ。教室ごとに多少進め方や内容が異なっていたが、以下の流れで行われた。

- (1) 自己紹介（準備していた PPT を活用）約 5 分ずつ
- (2) サティカセ MP の学生、TP11 期による PPT を用いたプレゼンテーション
(サティカセ MP の学生は一人ずつ発表)
- (3) プレゼンテーションを踏まえて質疑応答
- (4) ディスカッションと発表の内容を模造紙にまとめる。(各教室で違いがあった。)
- (5) まとめた内容を共有する。

(6) 写真撮影や交流



(7) プレゼン資料の例



5. 振り返り

(1) 準備段階でよかった点

- ・ 役割分担して PPT の内容作成をすることができた。

(2) 本番でのよかった点

- ・ イメージしていたディスカッションと異なる方法だったが、臨機応変に対応した。
- ・ 突然の質問にも、全員で協力して答えて対応した。
- ・ 模造紙に内容をまとめる際にサティカセ MP の学生と積極的に話し合えた。

(3) 反省点

- ・ 作成した内容を暗記して取り組むべきだった。サティカセ MP の学生のほとんどが内容を暗記していた。
- ・ 準備段階で作成したグループ LINE で、話し合いや内容の共有をさらに深く話し合うべきだった。
- ・ 発表内容や発表方法に認識のずれがあり、若干困惑してしまった。
- ・ もう少し質の良い内容の PPT を作成できたと思われる。短期間で仕上げたような出来になってしまった。

6. 後輩へのアドバイス

事前準備の段階でサティカセ MP の学生とグループ LINE を作成したにもかかわらず、多くのグループがあまり機能していなかったように思える。また、ディスカッションの進行のイメージを十分に把握できていなかった。このようなことをなくすためには、事前にサティカセ MP の学生と連絡を取り、情報の共有をするべきであると感じた。ディスカッションの時間になってから焦ってしまえばサティカセ MP 側に迷惑をかけてしまう。お互いにとって良い時間にするためにもグループ LINE を積極的に動かすことが必要である。また、ほかの企画で優先順位が低くなる可能性もあるが、内容の精度や発表の質を向上させる時間をグループ内で取るべきだと思う。

อิ่มแล้ว

【イム レーオ】

意味：お腹いっぱい

タイでおいしいものたくさん食べた時に使ってね！

洗濯の極意

1. コインランドリー用に小銭の準備をしておく。
2. 乾燥機を使わなくても、バスルームに干せば半日で乾く。
3. 洗剤を持っていても良いが、コインランドリーに洗剤はある。
4. 洗濯ネットを必ず持っていく。
5. 夜のコインランドリーは、安全上1人で行かないようにする。



ホストファミリー

「夜の UNO 大会」

森田 茉桜

最初に、私のホストファミリーを紹介します。日本語が少し話せるお父さん、とても優しくておしゃべりなお母さん、日本に留学したいと思っている小学4年生のフェイヤーちゃん、元気いっぱいの小学1年生のジェイアーくんの4人家族です。

1日目と2日目の夜、連続で UNO 大会を開催しました。UNO は私が持ってきたものを使いました。

1日目の夜、お父さん、フェイヤーちゃん、私の3人で UNO をしました。ジェイアーくんは1人でパソコンゲームをしていました。この日はお父さんの反応が面白く、私がギリギリで勝った時にはカードを投げつけて悔しがっていました。その反応をみて私もフェイヤーちゃんもお母さんも大笑い。

2日目の夜。この日お父さんは仕事で家におらず、1日目に UNO をやりたそうにしていたジェイアーくんが混じり私とフェイヤーちゃんと3人で遊びました。ジェイアーくんは勝つごとに嬉しそうに飛び跳ねたり、叫んだりしていました。ですが、私が勝った時にはお父さんと同じくカードを投げ、ソファにダイブして悔しがっていました。忘れられない白熱の UNO 大会になりました。

今回まさかの UNO が私たちの仲を深めるきっかけになり、とても楽しい思い出が作れました。UNO は国境を越えるゲームだね！



「大好きな第二の実家・Mirin's family」

石川 麻夢

私がホストファミリーと過ごした3日間は、家族の温かさを感じられました。私は本当に英語が苦手で、簡単な会話も自信がなく迷ってしまうほどでした。しかし、ホストマザーもファザーも気さくに話しかけてくれて本当に安心しました。辛いものが苦手と伝えたら辛さ控えめの料理をたくさん注文してくれて、「ちょっとだけ日本が恋しい(まだ渡航 4 日目)」と伝えたら日本人町に連れて行ってくれて、犬好きなことを伝えたら犬カフェに連れて行ってくれて…たくさん私のことを考えてお出かけに連れて行ってくれました。

ホストシスターは2日目も人見知りでなかなか話せなかったけど、最終日の朝に苦手な早起きを頑張って、私が食べたいと言っていたパッタイを作ってくれて、一緒に食べたことが一番の思い出です。冗談を言ってたくさん笑わせてくれたカッコいいお父さん、たくさんお話をしてくれた美人なお母さん、恥ずかしがりやだけどとっても優しい妹。最後までつたない英語で申し訳なく思っていたけど、「タイに来るときは絶対連絡して！必ずまた会おうね」と言ってくれて、間違いなくタイの実家はこの家族だと思えました。次会う時のために英語の勉強も頑張っています！



「My Bro」

大木場 柊哉

私はブーム君というホストファミリーにお世話になり、彼と楽しい時間を過ごしました。彼は友達が多く、放課後はサッカーやバスケットなど高校生らしく遊んでいましたが、会話をするとなると、英語を使いこなし私や友達と流暢に話していました。そんな彼を見て、私は尊敬の念を抱くようになりました。

彼との思い出は放課後にバスケットとサッカーを一緒にしたことでした。彼の周りの個性的な仲間たちと混じってするサッカーやバスケットは高校生に戻ったような感覚になり、楽しい時間になりました。彼らは私のことを

「My Bro」と呼んでくれて本当にうれしかったです。また、ブーム君とは日本食を食べに行き、日本語や文化を教え、逆に私はタイの文化や英語についてたくさん教えてもらいました。一緒にお箸の使い方を練習したのは良い思い出です。

私にとってブーム君は尊敬できる人であり、Bro とも呼びあえる存在になりました。さらにブーム君の友達とも仲良くなり良い時間を過ごすことができました。彼らとの思い出は私にとって一生の思い出となりました。My Bro と呼びあえる存在ができたこの時間はかけがえのないもので、またいつか会えることが楽しみです。



「意味のない出会いなんてない」

片田江 奏花

私は、ご両親と叔母さん、10歳のサム君と8歳のプーンちゃんがいるホストファミリーの家庭に滞在させてもらいました。渡航前に一度メールのやり取りをただけで、雰囲気も性格も分からないまま初対面し、緊張しました。ファミリーも同じくらい緊張していたと思います。最も不安だったのは、言語の壁です。英語は話せるものの、タイ語に関しては全く分からない状態だったので、家族と距離感が生まれるのではないかと考えていました。しかし、実際は、全員英語が流暢でコミュニケーションを積極的に取ろうとしてくれました。同時に、たった2泊の滞在にも関わらず様々な場所に連れて行ってくれました。抱いていた不安が一瞬で掻き消される程に、ファミリーの暖かい心とおもてなしの気持ちを感じました。それ以上に、初めて出会った私を本当の家族の一員のように接し、迎え入れてくれたことが心の底から嬉しかったです。別れ際には、お腹が空かないように大好きなチョコレートパンを持たせてくれ、ブラザーとシスターは、ずっと「帰らないで」と言うてくれました。最後まで『愛』を感じました。その反面、逆の立場に置かれた時、自分はここまで他者に尽くせることができるのだろうか、とも感じました。このホストファミリーと出会えたことは、自分の人生に何らかの意味があると思います。人の関わりにおいて、異文化、多国籍、多言語の壁は無いと実感させられる出会いでした。



「タイの妹とショッピング」

酒井 優衣

私は、タイでとても可愛い妹ができました！！渡航前からホストファミリーに会うことが楽しみでしたが、会う直前は、緊張と期待でドキドキしました。セレモニーでとても笑顔で迎え入れてくださって、緊張は解けました。2日間で、市場に行ったり、マンゴーを食べたり、レストランで夜ご飯を食べたりしました。ホームステイ中に1番楽しかったことは、ショッピングモールに行った2日目です。ホストマザーが車でチョンブリの1番大きいショッピングモールに連れて行ってくれました。最初は、ドリンクを飲みながら、私がタイで行ったところを話しました。そして、タイでTシャツを買いに行ったら、可愛くてリーズナブルなTシャツをプレゼントしてくれました。そのTシャツは日本でも愛用しています！その次に、化粧品



のお店を回りました。ホストマザーが「MERREZ' CA」というコスメブランドを紹介してくれて、店員さんに直接私の顔にメイクをしてもらいました。タイのコスメに興味があった私にとって最高の思い出になりました。

実は、ホストファザーが日本人で、タイについていろいろ日本語で教えてもらえたので、日本人から見たタイの面白さをたくさん聞けました！2日間は短すぎたので、今度はゆっくり行きたいです！

「タイの家族」

猿田 夏実

私は今回の渡航で人生初のホームステイを経験しました。ホームステイをすると聞いたときはワクワクでいっぱいでしたが、ホストファミリーと初めて対面する直前になると緊張と不安でいっぱいになり数えきれないくらい「どうしよう」と言っていたことを覚えています。私の不安や緊張とは裏腹にホストファミリーは温かく笑顔で受け入れてくれました。初めて対面したその日の夜ご飯は海が見えるレストランに連れていってもらいました。そのあとは、ホストシスターと一緒に写真を撮ったり、砂浜で遊んだり、ブランコに乗ったりして過ごしました。そのレストランはホストファミリーとの距離を縮めてくれた思い出の場所になりました。とても濃い2日間で一番思い出に残っているのは、最終日の夜にホストシスターが歌を歌ってくれたことです。私も大好きな曲だったので2人で一緒に歌いました。たった数分のことでしたが忘れられない思い出になったし、その曲がもっと好きになりました。



初めてのホームステイで不安でいっぱいだった私を家族の一員にしてくれた温かいホストファミリーにとっても感謝しています。一緒に過ごしたこの数日間のすべての瞬間が思い出として私の中に色濃く残っています。

初めてのホームステイで不安でいっぱいだった私を家族の一員にしてくれた温かいホストファミリーにとっても感謝しています。一緒に過ごしたこの数日間のすべての瞬間が思い出として私の中に色濃く残っています。

「理想の自分を発見」

鈴木 和

私は、ホームステイの経験が、渡航の中で一番得たものが大きいと思っています。みんな英語で様々な話をしてくれて、何度も聞き返しながらもなんとか会話できました。特にホストファミリーの小6の女の子の英語が流暢で、自分の伝えたいことをじっくり考えることなく話していて驚きました。サティカセの英語教育は話すことにも力を入れている、レベルの高いものだと実感しました。発音もとてもきれいで癖がなく、慣れていない自分でも聞き取れる英語を話していて、自分もこんな風に話せるようになりたいと思いました。その子は日本が好きで、移動の車の中で日本に行った写真を見せてくれました。このときに、他愛もない日常会話の難しさに気づきました。

ホームステイの経験を通して、自分の英語に対する向き合い方が変わりました。集中して英語を聞き続け、話し続ける3日間は貴重な経験になりました。今まで漠然と受動的に英語の授業を受けてきましたが、具体的な理想を持つことができるようになりました。今は自分の伝えたいことを詰まることなく話したい、相手との仲を深められるような会話がしたいと思っています。この目標を持って、話すことに重きを置いた勉強をしていきたいです。



「仲良くなれた2日目」

田中 美羽

私は、極度の人見知りと、英語話すことができないので、ホストファミリーと仲良くなれるかととても不安でした。しかし、ホストファミリーは温かく迎えてくれて少し安心しました。

私が一番印象に残っているのは2日目の出来事です。まず、学校から帰ってきたら、ホストシスターとその友達とホストブラザーと UNO をしました。色を指定するとき、日本語で色の名前を言ってくれたり、順番を決めるときにタイ式の決め方を教えてくれたり、コミュニケーションを図ってくれてうれしかったです。UNO をした後、ホストファミリーとタイ料理を食べに行きました。辛すぎるものが苦手と話したら、あまり辛くないものを注文してくれました。その食卓に出てきたソムタムが美味しすぎて、私の好きなタイ料理になりました。タイ語で「美味しい」と言ったらホストマザーが喜んでくれて、タイ語を話すことは重要だと感じました。1日目は、お互い緊張してあまり話すことができなかったが、2日目は日本語の意味を教えたり、他愛無い話をしたりして、少しずつ会話が増えてきてうれしかったです。少し慣れてきたところで、お別れするのは悲しかったけど、良い思い出になりました。



「“You can try!” から得た最高の経験」

西口 真菜美

ホストファミリーと過ごした時間はとても楽しく、タイ渡航中の思い出の中で、一番印象に残っています。事前にタイの海を見たいと伝えていた為、パタヤの海辺にあるサンクチュアリー・オブ・トゥールス（真理の聖域）に連れて行ってくれました。これは、金属の釘を一切使われていない木造寺院で、あらゆる所に神々の彫刻が施されていました。小学生のホストブラザーが、一つ一つ彫刻に関する難しい内容を流暢な英語で説明してくれ、とても勉強になったと同時に、刺激されました。年齢が8歳も離れているのに、英語がペラペラで、沢山質問を投げかけてくれるけれど、うまく返答できないことが多々あり、もっと英語を話せるようになりたいと思いました。車の中でも、家でも、会話が途絶えることなく、大学や家族の話をしたり、お勧めの日本の観光地を紹介したりして、とても仲が深まり、嬉しかったです。ホストマザーはいつも“You can try!” と声をかけてくれ、私に初めての体験を沢山させてくれました。自分がやってみたいと思ったなら、相手に頑張って伝え、挑戦してみることで、会話が弾み、自分の成長にも繋がるし、ホストファミリーとの距離も縮まることを学びました。



「幸せな思い出が詰まったホームステイ」

西田 千鶴

1 日目の夜は、ホストファミリーが辛い物が苦手な私でも食べられるタイのレストランに連れてもらいました。どれも美味しく、タイ料理を堪能することができました。その後は、チョンブリーのナイトマーケットに連れてもらいました。出店にある気になるタイ料理を沢山トライさせてくれました。2 日目は、私の念願だったタイの伝統衣装を着させてもらいました。寺院もお城のようでとても美しかったです。その後は焼肉に連れてくれました。焼肉の食材のタイ語を教えてもらったり、逆に日本語では何というのか教え合ったりしました。最後には、ビーチにも連れてもらい、本当に幸せなひと時を過ごすことができてとても充実していました。ホストマザーに家に帰る車で「ずっと一緒にいてほしいです」という翻訳がされた画面をかざしてくれて、本当に心が温まりました。私を家族の一員としてもてなしてくれて本当に楽しくて幸せなホームステイを経験できました。



「私の第二の家族」

村井 美南

ホストファミリーとの思い出で一番印象に残っていることは、4つ下の女の子と趣味が驚くほど合っていたことです。日本のアニメ、僕のヒーローアカデミアはお互い好きで、たくさん話せてとても楽しかったです。日本のアニメならまだ分かるかもしれませんが、まさかの、好きな著者まで一緒でした。私は、東野圭吾さんの本が大好きで毎日欠かさず読んでいるのですが、その中でも一番お気に入りの「容疑者Xの献身」という本を持っていて、さすがに驚きました！東野圭吾さんの本は、タイにまで知れ渡っているのだと、感慨深く感じた覚えがあります。彼女は学校で日本語を勉強していたので、とても日本語が上手で、基本日本語で会話できました。お互いの国の色々な話をしたり、趣味や好きなものを語り合ったりする時間は、とても貴重な時間であったし、楽しかったです。



家族の人たちも、私のことを温かく迎えてくれ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。夕日の見える海やマーケットに連れて行ってくださったり、地元のおいしいタイ料理屋さんを紹介してくださったり、思い出はたくさんあります。お別れの時はとても寂しかったのを覚えています。住んでいる場所は離れていようと、私のもう一つの家族に変わりないです。

「タイでの家族」

柳瀬 薫奈

私はホームステイで、家族全員で外出したことが一番の思い出です。ホームステイの期間はずっと外出しましたが、2日目は家族全員で出かけることができました。また、ホストファミリーは私のタイドレスを着てみたいという夢を叶えようと、私好みのタイドレスが見つかるまで探してくれました。そんな念願のタイドレスでチョンブリの有名な観光地を訪れ実際にお祈りしたり、タイの有名な料理を食べさせてくれたり、チョンブリを満喫することができました。さらに、ホストファミリーはよく日本に旅行をしていたので、日本の話で盛り上がりました。お互いの母国語は分からないので、英語や翻訳を使って会話をしましたが、楽しく会話できました。そのような思い出の中で特に心に残っていることは、私を家族のように接してくれたことです。ホストファミリーがずっと「私たちは家族だよ」と言ってくれたことや、お父さんがFacebookで、「かわいい娘」というコメントと一緒に、この家族全員の写真をあげてくれたことなどによって、初めての海外でのホームステイで不安を抱いていましたが、心が温まり安心してホームステイを楽しむことができました。ホームステイは、普通の旅行では得られない、貴重で素敵な経験になりました。



「ゲームの楽しさは世界共通！」

和多田 弥憂

ホストファミリーとの一番の思い出は、お家で夜ご飯を食べた後に、みんなでボードゲームをしたことです。私のホストファミリーは少しシャイで、1日目はあまり馴染めないまま終わってしまっていました。でも2日目の最後の夜にこのゲームをしたことで、一気に緊張が解けて、心から楽しんで笑えるようになりました。ゲーム中、自然とコミュニケーションをとることができ、誰かがミスをしたときにみんなで笑いあい、親子で攻撃しあって仲良さそうにしているのも、とてもほほえましかったです。ゲームはもちろん楽しかったけど、みんなと仲良くなれたことが何よりも嬉しかったです。



ホストファミリーの女の子がプロレベルの囲碁プレイヤーで、囲碁を見たこともない私が、連れて行かれるままに囲碁教室に行って囲碁を初めてしたり、屋台で食べきれないくらいのたくさんの料理を買ってくれたり、私は動物が好きじゃないけど猿の餌やりができるところに連れていってくれるなど、たった数日なのに色々な経験をさせてくれました。かけがえのない思い出をくれたホストファミリーには、本当に感謝しかありません。もう少し私も囲碁を練習して、また一緒に打ちたいと思っています。

ฉันคิดถึงคุณ

[チャン キドゥン クン]

意味：I miss you

バディやホストファミリーとお別れするときに寂しい思いを伝えよう

個人体験記

「ビックリ驚きタイランド！」

森田 茉桜

まず、タイに行って思ったこと。それは「暑い」ことです。太陽の光がメラメラと降り注ぎ2月とは思えないほどの暑さでした。あと交通です。車間距離が笑ってしまうほど近いです。タイで過ごしているうちに慣れましたが初日はバン(私たちが移動で使っていた車)でみんなは、運転手さんが急ブレーキをかけるたびに悲鳴をあげていました。原付もすごいです。2人乗り、3人乗りはもちろん。ノーヘル運転者もいます。ホストファミリーに聞いたところ、タイは交通の取り締まりがゆるいらしいです。

「パニックナイトマーケット」タイ1日目の夜。ホテルの外にはナイトマーケットが開催されていました。ネオンサインの大麻のマークがあちこちに見える中、日本語で話しかけてくるタイのおじさん、露出度高めのお姉さんたちがいるクラブ、大音量のバンドの生演奏、、、etc. 日本では、和歌山では見えないような光景ばかりで初めはパニックになりました。ナイトマーケットの通りを抜けないとコンビニに行けなかったため、友達と一緒にくっついて行動しました。

他にもたくさんの思い出があります。「永遠に降りられない観覧車」「しゃぶしゃぶ屋と寿司屋を混ぜたお店」「ものすごく甘いピンクミルク」「ココナッツはもうお腹いっぱい」「ぼったくられた友達」などなど。短編集が出せそうですね。

タイでは日本とのあまりの違いに驚かされるばかりでした。日本に住んでいて、当たり前だと思っていたものがタイでは当たり前ではないことが分かりました。でも、タイの人はとても優しい人ばかりです。タイプロではいろんな人と関わり、つながることができとても貴重な経験になりました。

改めてタイプロ11期のみんな、れいなさん、ゆみさん、ふーじー、そしてタイで出会った方々のみんなが大好きです。忘れられない最高の思い出をありがとうございました。

「初めての海外で見つけた私の可能性～TPが変えた人生～」

石川 麻夢

大学に入学したばかりの頃、TP10期の先輩が「タイプログラム、英語話せなくても行けるし初海外ならハードル低めでおすすめたよ」と教えてもらって、「海外研修はガクチカになりそうだし、一つくらい大学生っぽいことしよう」くらいの軽い気持ちで参加を決めました。まさかこの決断が、後に自分の人生を大きく変えることになるとは知らずに…。TPで出会った仲間は自分とは違う考え方や目標があって、TPに参加しなかったらきっと仲良くなれなかった人も多く、メンバー皆から毎日刺激をもらいました。英語が本当に苦手で、海外留学とは程遠い人生だと思っていたので、初めての海外、まさかのホームステイやプレゼンもあると知りちょっと怯えながら準備を進めました。

タイ渡航中はメンバーやEDFさんがいる安心感からすぐに不安はなくなり、日本から飛び出してみないと分からないことばかりで、改めて参加してよかったと思う日々でした。普段はやめておこうと思うようなアクティビティや体験も、せっかくタイに来たから、皆が一緒だからとチャレンジすることが多くて、そのたびに自分の新たな可能性に気づくことができました。一方、私は渡航中に自分の英語力の低さに何度も後悔しました。交流した学校のバディもホストファミリーも本当にやさしく迎え入れてくれて、積極的に話しかけてくれたのに私は英語が話せなくて会話が続き、伝えたい感情や感謝の気持ちがうまく伝えられなくて、どうして勉強しなかったのだろうと、帰国後も何度も自分を責めました。この経験からきちんと英語を学びたいと思い、海外に行って英語を学ぼうという決意をしました。TPに参加しなければこの決断は絶対にしなかったもので、本当にいろいろな面でTPは私の人生を変えてくれたと感じています。この出会いと経験は一生ものの財産になりました。

「人生の大きなターニングポイントに」

大木場 柊哉

私はタイプログラムに参加し、幸せな体験をしました。最初は男一人で不安でしたが、最終的に私の大学生活にとって大切な居場所になりました。初めての海外、初めてのホームステイ、初めての世界の遺跡など私の好奇心を満たす素晴らしい体験でした。そして、このプログラムが私にとって夢を実現させるきっかけにもなりました。具体的には、来年、世界一周のバックパッカーになることです。これは私がずっとやってみたかったことで、タイプログラムがその勇気を与えてくれました。

私がこのタイプログラムに参加した最大の理由は海外に行ってみたいという思いからでした。「イッテ Q」や「世界ふしぎ発見」を見て育った私にとってこのチャンスを逃すまいと参加を決意しました。そして、渡航中は私の感情は常に揺さぶられていました。テレビや世界史の授業で見てきた遺跡が目の前にあること、異国の雰囲気あふれる夜の市場は私の求めていたものであり、最高の経験でした。特に心をつかまれたことが、チェンマイの学校で体験したコムロイです。これは灯ろうを天空に流す幻想的な体験で、夢のようなひと時でした。夜空にぼんやりと浮かぶ暖かい火の色は胸いっぱいの幸福感をもたらしました。今でもあの景色は鮮明に覚えています。その時、私の夢は今すぐ現実にするべきことに変わったと確信しています。

タイプログラムに参加することは、新たな出会いや体験を通して必ず自分の選択肢の幅を広げるものになると思います。私はタイプログラムでの経験をターニングポイントに新たな一歩を踏み出します。未知の体験を楽しめるマインドを形成してくれたタイプログラムが大好きで心から感謝しています。

「次の可能性へ」

片田江 奏花

TP11 期を終えて、貴重な経験と学びを得ると同時に、自身の価値観を更に広げることができたと考えます。まず、現地で実感した異文化理解の重要性です。タイは仏教を基盤とした国であり、その教えが日常生活や行動に深く根付いています。例えば、タイの人々は礼儀正しさや他者への敬意を非常に重視しています。これは「ワイ」という挨拶に象徴されるように、目上の人に対する敬意を示す行動として顕著です。日本では感じることもない宗教的価値観を知ると共に、このような文化的背景を理解することで、異文化コミュニケーションのスキルが向上し、国際的なビジネスシーンでも円滑な人間関係を築くための基礎を築く、きっかけになりました。

また、都市部と農村部での教育格差の現実に直面しました。質が高く、設備の整った環境の教育である都市部に対し、農村部での教育の質や環境は低いものでした。教室数は少なく、第二言語を学ぶ上でネイティブの日本語や英語教師はいませんでした。それ以上に衝撃を受けたのは、食事の衛生面です。都市部の学校の給食は、日本の給食形態と似ており、食器や配膳方法なども衛生面に配慮した形ですが、農村部では食堂でハエが飛び交う中で料理を行い、提供していました。このような、双方の格差について、都市部でのホームステイや農村部での宿泊などを通したからこそ、より生々しく教育や環境の地域格差を実感し、ショックを受けました。

これらの経験は、決して普段の生活では得ることのない気づきや学びを与えてくれました。タイの直面する課題への気づきを他人事と捉えず、解決に向けた具体的な行動を起こしていきたいと考えています。

「挑戦してみると意外と面白い」

酒井 優衣

私は、タイプログラムを通して、「挑戦すること」の大切さを学びました。タイに渡航中の一番大きな挑戦は、夜のナイトマーケットを歩いて、ショッピングを楽しむことでした。タイに渡航した日、ホテルの前にクラブや大麻が販売している「ヤバイ」ナイトマーケットがあるのを見て、「絶対に行きたくない」と強く思ったことが印象に残っています。しかし、私はタイのセブンイレブンに行きたくて、ナイトマーケットを恐る恐る通り抜けました。やはり「ヤバイ」ナイトマーケットでした。クラブの前には、若い女性が座っていたり、大麻を吸っているおじさんがいたりして、衝撃的でした。でも、あの日勇気を出してナイトマーケットに行ったからこそ、外国ならではの値段交渉も経験できたし、見たことない世界も見られました。そして、東南アジアの「タイ」に行ったことも挑戦でした。東南アジアは、興味はあったけど、なかなか行こうと思えない国でした。そう思っている中で、「タイプログラム」を見つけて、参加を決めました。初めは、知らない子がいたり、タイについてあまり知識がなかったりして、とても不安が大きかったです。しかし、「タイプログラム」を終えた今、タイのことが好きになり、メンバー同士のきずなも深まり、チームワークで頑張ることの大切さや一から企画を考える面白さ、大変さを学ぶことができました。ひとつだけ、後悔していることは、「タイマッサージ」に行く勇気が出なかったことです。「やっぱりやっておけばよかった」と思っています。また、タイにはいきたいから、次は、マッサージはもちろん、まだ知らないことにどんどん挑戦してみ「タイ」です。

「I love Thailand」

猿田 夏実

私はこの 12 日間でタイという国が大好きになりました。タイプロを通じて本当にいろんな出会いがありました。ナイトマーケットで出会った陽気なおじちゃん、レストランで見た超イケメンのお兄さん、トゥクトゥクにやたらと乗せたがるおじさんやTシャツを売ってくれたかわいいおばさん。私が一番好きなのはタイのゆるーい雰囲気です。店員さんがおしゃべりしていたり、道端で原付の上で昼寝していたり、ケータイをいじりながら働いていたり。程よく力の抜けた、頑張りすぎている感じが最初は驚きと困惑が多かったのですが、帰国する頃にはそれが心地よく感じていました。いろいろな人との出会いが私に刺激をくれたし、日本では気づけなかった当たり前を気づかせてくれました。そして何より大きかったのはタイプロメンバーとの出会いです。渡航前、渡航中、渡航後も何度みんなのやさしさに触れて、その存在の大きさに気づかされたか分かりません。本当に感謝しています。

タイで出会ったのは人だけではなくありません。12日間で様々な景色を見ました。2日目に夜ご飯を食べながら船から見た景色が特に記憶に残っています。タイの街並みに夕日が沈むのを見ながらゆっくりした時の流れを感じ、明日はどんなことがあるのかなと考えていました。歴史的な建物とビルやバイクとが入り混じったタイ特有の景色、今でもたまに思い出して恋しくなります。こんな素敵な出会いと経験と感動をくれたタイが大好きです。

日本の小さな和歌山を飛び出して見た景色や出会いは一生忘れることのできないかけがえのない思い出になりました。

「チャンスをものにする」

鈴木 和

私はこのタイプロで、人生で初めて海外に行くという経験をしました。12 日間の渡航を終えて思ったのは、「国境は思っているよりも簡単に超えることができる」ということでした。英語でのコミュニケーション、一人きりで臨むホームステイ、タイの環境に適応できるかどうかといった、渡航前に不安に思っていた点は、すべてなんとかできました。もちろんそれは楽なことではなく、英語での会話に集中し続け、初めて会う家族とうまくやっていけるか考え、慣れない気候と食事に疲れが取れないと覚えることも多かったです。でも、すべて乗り越え、タイでできる経験を一つも取りこぼすことなく日本に帰ってきました。

人は、新たな環境のなかに入れば、できることが増えていくのだと知りました。初めて会う人となかよくなろうと努力したこと、感謝を伝えるために手紙を書いたこと、ゾウに乗ったこと、値切りを試みたこと、トゥクトゥクに乗って夜の街を走ったこと、辛い料理や虫を食べてみたこと、骨組みだけの観覧車に乗ったこと、なるべくスマホを使わずに英語を話したこと、すべて日本にいたらできなかった経験です。自分を知っている人がいない環境だからこそ、人の目を気にせずなんでもチャレンジできました。一歩踏み出すハードルが低くなったような感覚でした。

日本に帰ってきてからは、元の性格が戻ってきたような感覚で、決断をするときに「やらない」方を選んでしまうこともありました。でも、この体験記を書きながら、タイで「やる」方を選び続けたことを思い出しています。自分に巡ってきた機会はすべて取りこぼさない、これを自分のポリシーにしていきたいです。

「消極的から積極的へ」

田中 美羽

私は、タイプログラムを通して多くのことを学びました。渡航中だけではなく、渡航前にもいろいろ学ぶことができました。私は、人見知りで人とコミュニケーションを取るのが苦手です。また、私はなんでも一人でやろうとする癖があります。だから、班のリーダーになった時、一人でいろいろ抱えようとしていました。でも、このままではいい企画にはならないし、その前に終わらないと思って、みんなに仕事を振り分けました。すると、沢山のアイデアが出てきて少しずつ終わりが見えてきました。また、最初は知り合ってそんなに経っていないから、話し合いが少しぎこちない感じでしたが、時間が経つにつれて TP メンバーとも仲良くなり素の自分も少しずつ出せるようになりました。だから、話し合いがやりやすくなり、企画の準備がはかどったように感じました。

タイでは、コミュニケーションの大切さを改めて感じました。バディやホストファミリーと話したいけど、言葉が出てこなくてうまく話すことができなくて、とても悔しかったのを覚えています。積極的に話せてれば、もっと仲良くなったのにと後悔ばかりが残りました。だから、農村の学校では積極的に話すように努力しました。すると、良い思い出ができたし、とても仲良くなることができました。

私は、タイプログラムに参加する前より、積極的にコミュニケーションを取ることができるようになったと思います。積極性を増すことで、自分にとっても相手にとってもいい思い出になったのではないかと考えます。また、タイプログラムに参加する前は、みんなと仲良くできるかなと不安でいっぱいでしたが、仲良くなれてよかったです。

「人の温かさを実感した 12 日間」

西口 真菜美

タイ渡航中は、沢山のひとと出会い、様々な場面で文化の違いを実感しました。一番印象に残っているのは、タイのおもてなし精神です。バディーやホストファミリーなどから、今までもらったことがない量のプレゼントを頂き、沢山歓迎してもらいました。授業の合間の 10 分の休み時間でさえも学校側からケーキや果物が提供されたり、バディーから大きなぬいぐるみや手作りのキーホルダーなどをもらったりして、心がとても熱くなると同時に、日本のおもてなしとの違いを感じました。日本のおもてなしは、細かい気遣いで相手をさりげなくもてなすことを重要視する傾向がありますが、タイのおもてなしは比較的オープンで、歌を歌ったり、お揃いのアクセサリーを作ったりなど、物を差し出して相手をもてなす傾向があるように感じました。

他にも、タイ人はとても温かく、すぐに手を差し伸べてくれる人が多かったです。市場で道に迷っていた時、「大丈夫?」と声をかけてくれてくれたり、パーツの計算で手こずっていた時、店員さんが優しく丁寧に説明してくれたりしました。これらの行動の裏には、タイ人の寛容な心や時間的余裕、更に仏教の“徳を積む”という慈悲的な精神が関係していると考えました。

上記のことを踏まえ、日本のおもてなしは世界的に評価されているけれど、果たして本当に、相手を心の底から思いやり、もてなすことができているのかと疑問に思いました。タイで受けたおもてなしが表面的なものではなかったからこそ、短い時間だったバディーとのお別れで涙が溢れたし、帰国後もタイで受けた心のこもった行動が頭から離れません。渡航中、私をもてなしてくれた人すべてに感謝しながら、今後の生活に役立てていきたいです。

「忘れられない、忘れたくない 12 日間」

西田 千鶴

タイ渡航一週間前に体調を崩し、一週間後自分がタイにすることが想像もできずとても不安でした。今回が初めての海外、初めての飛行機、病み上がりで心配でしたが、最初から最後まで全力で楽しむ、たくさんの人と出会って、自分の視野を広げる、タイプロ 11 期の代表としてみんなを最後まで支えると心に決めてタイに向かいました。タイ渡航中には、タイの伝統衣装を着せてもらったり、ゾウに乗ったり、バディと一緒にコムローイをしたり、トゥクトゥクに乗ったり、やりたかったことを全部叶えられて幸せでした。タイプログラムを通して、色んなひとと出会い、人の温もりに触れ、素敵な景色をたくさんみることができました。タイの学校でもホームステイ先でも快く歓迎してくださり、居心地が良くてあっという間でした。交流企画のパフォーマンスでは、振付を一から考え、みんなに教えて、実際にタイで披露した時は頑張ってきて良かったと感動しました。1 年間 11 期の代表を務めさせてもらって、正直不安はありました。言語化するのが苦手で、みんなに自分の想いを上手く伝えられず、みんなの頼もしい姿を見るたびに自分が代表で良かったのかなと責めてしまうこともありましたが、千鶴が代表で良かったと言ってくれるメンバーに支えられて最後まで責任をもって役割を果たせました。授業に部活にバイトに両立するものが多くて何度もパンクしそうになりましたが、10 期の先輩方にもずっと陰で支えてもらっていました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。タイプロに参加したことで、さらに自分の見たい世界が広がり、何事にも恐れず挑戦していく力が備わりました。ここで感じたことを忘れず、これからも人との出会いを大切にしながら新しい世界を見続けたいです。

「やってみようの精神」

村井 美南

私がタイプログラムで学んだことは、新たなことに挑戦してみることです。私がタイの学校を訪れた時、先生から生徒まで私たちの渡航を歓迎してくださり、たくさんのおもてなしの品物を用意してくださいました。去年のタイプログラムの先輩にそのことを少しばかり聞いていたものの、これほどとは想像しておらず驚きとうれしい気持ちでいっぱいになりました。それはお別れの時も一緒でした。どれだけ嬉しくて、ありがとうという言葉伝えようとしても、日本語はほとんど通じない人もいたため、日本語でコミュニケーションをとることは難しいです。また、英語やタイ語ではもどかしく感じた覚えがあります。気持ちは感謝でいっぱいであるのに、言語となると本当にこの気持ちが伝わっているのかなと思うことがありました。しかし、言葉が伝わらないからと言ってコミュニケーションを辞めてしまうことは違うなと思いました。それは、通じ合うことを諦めてしまっているからです。諦めてしまっただけでは何も始まらない、失敗するか成功するかなんて始めてからしか分からないからです。

私はこのタイプログラムで、言語が違う、文化が違う、生活が違う、と今までには経験したことのない違いを感じてきました。しかし、それらの違いにも打ち負けることなく、英語やタイ語で話してみたり、タイの文化や生活に染まってみたい、やってみようの精神で過ごしてきました。やったことのないことに挑戦することは勇気が必要でしたが、いざやってみれば全くできないことはなかったです。初海外で不安であったこともありました。そこで怖気づかずに一歩踏みだしてみることの大切さを学びました。

「TPでの挑戦」

柳瀬 薫奈

私の大学生活での大きな目標は、「たくさん挑戦する」ことです。私は旅行が大好きで、国際交流にも興味があったため、TPなら私がしたいことを叶えられる！と感じて応募を決めました。TPでは、初めてのタイ渡航、初めての海外の学校に訪れて現地との交流、初めてのホームステイなど、初めてのことばかりでした。不安もありましたが、不安以上にたくさん挑戦できるというワクワク感が強く、タイ渡航をとて楽しみに準備を進めていました。実際タイを訪れてみると、想像以上にさまざまな経験をしました。渡航中よく行ったナイトマーケット。日本ではなかなかない値切り交渉に戸惑いつつも、回数を重ねていくうちにコツを掴んで楽しく交渉できました。初めての昆虫食もTPメンバーと挑戦し、美味しく食べることができました。現地の人とのコミュニケーション。英語で会話することも新鮮でしたが、英語で伝わらないときにジェスチャーや表情で伝えたり、翻訳機を使用したり、なんとかして相手に自分の考えを伝えようと頑張り、それが伝わったときに普段以上に喜びを感じられたことが楽しかったです。自由時間で乗った念願のトゥクトゥク、渡航中毎日お世話になったバン。チェンマイではゾウ乗り体験をし、ゾウの首に直接乗って肌で感じられました。まだまだありますが、このようにTPでは日常生活では体験できないことたくさん貴重な経験を積むことができました。約一年間のTPを通して気づいたことは、挑戦することでたくさん発見できる、もっと物事を楽しむことができるということです。これからもTPの経験を踏まえて、たくさん挑戦して異文化に触れていきたいです。

タイに着いた瞬間、私は日本とは違う空気を肌で感じました。タイの気候、雰囲気、風景全てが新鮮で、ずっとわくわくしていたのを覚えています。あらゆる景色を目に焼き付けるべく、いつも辺りをキョロキョロし、様々な料理に挑戦し、タイの生徒と積極的に話し、全力でタイを感じた日々でした。私の感覚に一番残っているのは、タイの匂いです。ご飯屋さんや屋台、マーケットではタイ料理にふんだんに使われている香辛料の香りがプンプンしました。日本食が恋しくなったところに香辛料の香りがするのは正直辛かったけど、今では逆にタイのお店の匂いが恋しいです。他にも、ヤードムのすっきりする感覚や、ゾウ保護センターのゾウの匂い、タイティーなどのドリンクやスイーツの甘ったるい香り、日本にいても感じることをできない感覚がたくさんあります。この感覚、自身に染みついたものは、私にしかない経験、そしてタイへの愛着につながったと感じています。タイという言葉在日常で耳にすると無意識に反応し、タイが私にとって特別な場所になったのだと実感する瞬間も多いです。こんなにもタイに愛着が生まれたのは、TPメンバーみんなでタイについて学び、みんなで意見や感情を共有しあったからこそだと思っています。感覚は、現地に行き実際に体感しなければ得ることのできない、貴重な財産です。でも、事前にある程度の知識をつけておき、後からその体験を言語化し振り返ることで、最大限に経験を自分のものにできると思います。私は TP を通して、経験したことや得た感覚をその場限りで終わらせず、今後に生かしていくための学びに変換する方法を学ぶことができました。

ขอโทษ

【コートー】

意味：ごめんなさい

やっちまった汗って思ったら、
これを言ってみてね♡

VISION・MISSIONの達成度

MISSION 1 好奇心を大切に気になったら飛び込んでみる

非常にそう思う（84.6%）、そう思う（15.4%）

→普段は絶対に食べないもの・苦手なものに挑戦できた。

MISSION 2 お互いの意見を尊重することができた

非常にそう思う（76.9%）、そう思う（23.1%）

→13人いろいろな意見がある中、お互いの意見を尊重しながら、決まり事をできた。

MISSION 3 タイと日本の相違点を感じて理解することができた

非常にそう思う（15.4%）、そう思う（61.5%）、そう思わない（23.1%）

→調査企画や食事のマナーなどを通して、2か国の違いを感じることはできたが、理解するところまでには至れなかった。

RULE 1 気づいたこと・教えてもらったことは共有することができた

非常にそう思う（23.1%）、そう思う（69.2%）、そう思わない（7.7%）、

→タイ語や企画の進捗状況などを先輩方に情報共有してもらった。しかし、各企画のリーダー中心で情報を把握していただけだった為、メンバー全員が理解できていなかった。

RULE 2 タイのあいさつを完璧にできた

非常にそう思う（30.8%）、そう思う（61.5%）、そう思わない（7.7%）

→事前講義に行われたタイ語講座のおかげで、渡航前にタイの挨拶を覚えた。そして、現地でもタイ人の人に教えてもらい、タイ語をより正確に学び、積極的に使うことができた。

RULE 3 お互いの意見に反応することができた

そう思う（76.9%）、そう思わない（23.1%）

→LINE上での発言には、リアクションボタンを押すなどして、お互いお意見には反応できていた。だが、LINEのノートや投票の締め切りに間に合わない人がいて、話し合いが円滑に進行しないことがあった。

RULE 4 困ったときは助け合えた

非常にそう思う（53.8%）、そう思う（38.5%）、そう思わない（7.7%）

→各企画中にアドバイスがあれば、相手のためにすぐに発言することができていた。渡航中も、お互いを思いやり、困ったときは支えあえた。

編集後記

編集班：片田江奏花、酒井優衣、鈴木和、田中美羽

TP11 期報告書をご覧いただき、ありがとうございます。TP11 期の初顔合わせから、約 1 年の間で渡航を含め、数々の貴重な体験をさせていただきました。頭を抱えながら作成した調査・交流企画書をもとに、現地での体験を振り返りながら、自身が生で得た学びや感じた思いを言語化し、まとめ上げました。また、10 期では、新型コロナウイルスの心配で行うことの出来なかったホームステイも、今年からやっと再開しました。メンバーそれぞれのホストファミリーとの思い出も一部ではありますが、この報告書の中に載せております。楽しいことばかりではなく、辛いこと、苦しいこともありますが、互いに切磋琢磨し、七転八起の思いでやり遂げることが出来ました。この経験は、私たちの大学生活において大きな意味になりました。

それ以上に、この TP11 期のメンバーとの出会いが、それぞれにとって大切なものであったと思います。大学生活の中で、協力し、刺激しあった時間が宝物になりました。このプログラムで得た経験と人との出会いが実を結び、個々の未来へ繋がっていくことを願っています。

